

日本から世界へ。
グローバルで新薬開発に貢献する

Clinical Development Partner

新薬開発のプロフェッショナルとして、製薬会社をサポートする開発業務受託会社



2018年3月期 決算説明会



証券コード:2183

目次



-
1. 2018年3月期 決算概要 P. 2
 2. 経営戦略 P. 14
 3. (ご参考)リニカルについて P. 46

1. 2018年3月期 決算概要

連結：既存案件の本格稼働、新規案件獲得により増収



(単位:百万円、%)

	2017/3期		2018/3期		
	金額	百分比	金額	百分比	増減率
売上高	8,355	100.0	9,113	100.0	9.1
売上原価	4,687	56.1	5,579	61.2	19.0
販管費	1,539	18.4	1,686	18.5	9.6
営業利益	2,128	25.5	1,846	20.3	△13.3
経常利益	2,076	24.9	1,826	20.0	△12.0
当期純利益	1,447	17.3	1,295	14.2	△10.5

- ・ 既存案件の本格稼働、新規案件獲得により増収するも
内定案件のキャンセル等で期初の業績予想未達
- ・ 国内増員、海外拠点の拡充に伴い人件費等が増加し減益
- ・ 米国のM&Aに伴う費用が発生

単体：既存案件の本格稼働、新規案件獲得により増収



(単位:百万円、%)

	2017/3期		2018/3期		
	金額	百分比	金額	百分比	増減率
売上高	6,786	100.0	7,099	100.0	4.6
売上原価	3,911	57.6	4,460	62.8	14.0
販管費	897	13.2	915	12.9	2.0
営業利益	1,977	29.1	1,723	24.3	△12.8
経常利益	1,943	28.6	1,718	24.2	△11.6
当期純利益	1,298	19.1	1,132	16.0	△12.8

- ・ 既存案件の本格的稼働、新規案件獲得により増収するも
内定案件のキャンセル等で期初の業績予想未達
- ・ 新卒・中途採用、既存要員の昇格昇給等により原価人件費等が増加し減益
- ・ 米国は投資フェーズで引き続き引当金計上

各国単体



(単位:百万円、%)

	2017/3期		2018/3期			
	売上高	経常利益	売上高	増減率	経常利益	増減率
JAPAN	6,786	1,943	7,099	4.6	1,718	△11.6
USA	54	△72	73	34.2	△136	87.7
EUROPE	1,492	166	1,909	28.0	268	61.0
KOREA	287	40	366	27.5	51	27.9
TAIWAN	225	84	190	△15.7	18	△78.1
連結調整	△490	△85	△526	7.4	△93	8.8
Total	8,355	2,076	9,113	9.1	1,826	△12.0

のれんの残高と残存償却期間(2018.3期末)



(単位:百万円)

	金額	残存 償却期間	年間 償却額
KOREA	28	1年	28
EUROPE ※1	1,020	15年	76
USA ※2	3,101	16年	193

※1 のれん以外にPurchase Price Allocation により認識された無形固定資産の2018.3期末残高は114百万円です。そのうち、102百万円は残存償却期間13年(年間償却費7百万)、12百万円は残存償却期間1年(年間償却費12百万)です。

※2 Linical Accelovance America買収により発生する、現時点で想定されるのれんの総額、償却期間を記載しております。

KOREA 業績



(単位:百万円)

	売上高	経常利益
2015.3	131	△81
2016.3	202	△21
2017.3	287	40
2018.3	366	51
2019.3予想	510	74

※韓国でのれん償却費は、韓国単体業績に含まれております。

※韓国でのれん償却費は年間28百万、残存償却期間は1年(2019.3期迄)となっております

EUROPE 業績



(単位:百万円)

	売上高	経常利益
2016.3	1,499	142
2017.3	1,492	166
2018.3	1,909	268
2019.3予想	2,213	306

※欧州のM&Aに関連して発生したのれんの償却費は、連結手続き上で認識しており、上記欧州連結業績には含まれておりません。

※欧州のM&Aに関連して発生したのれん償却費は年間76百万、残存償却期間は15年(2033年.3期迄)となっております。

USA 業績



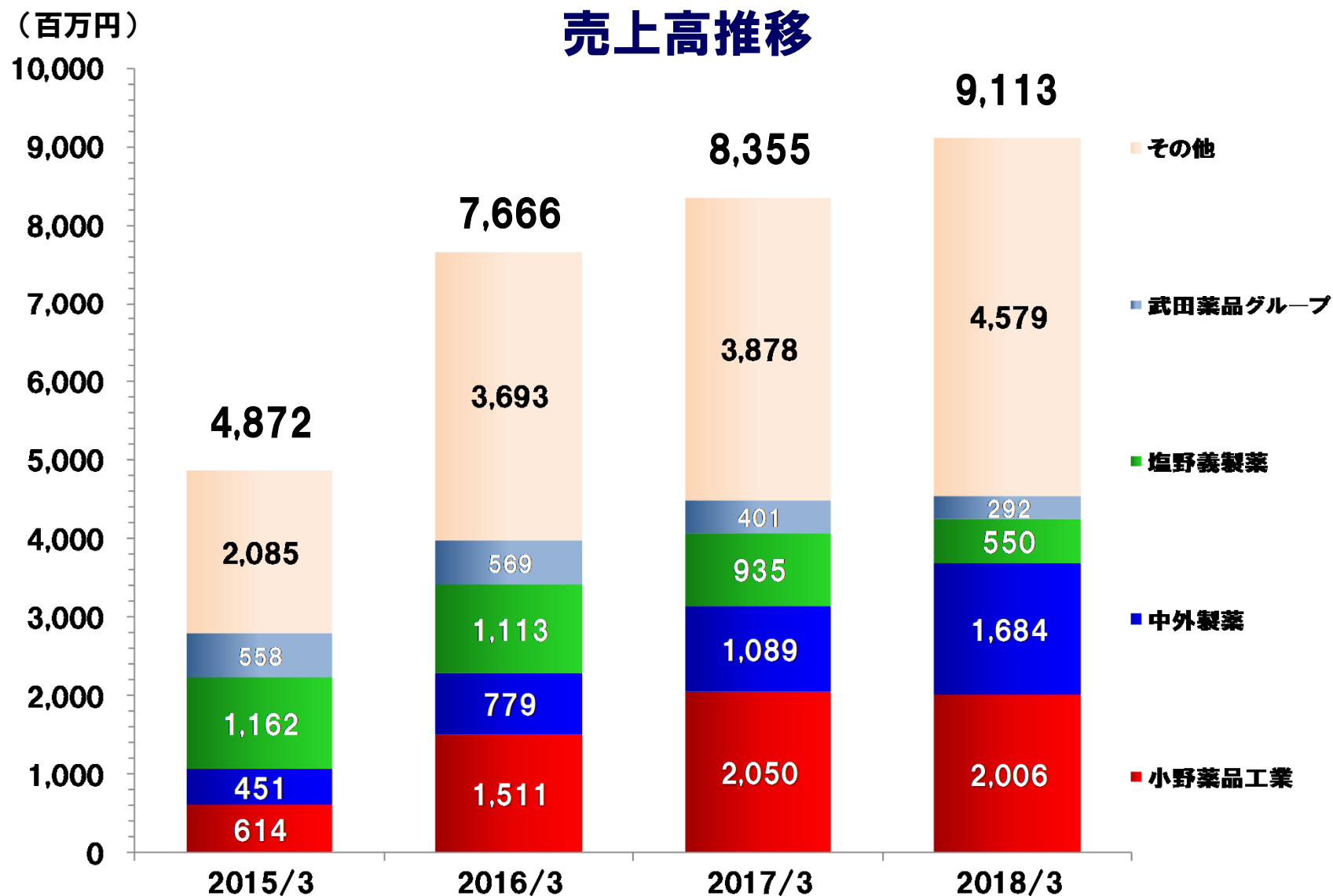
(単位:百万円)

	売上高	経常利益
2016.3	46	△10
2017.3	54	△72
2018.3	73	△136
2019.3予想 (LAA単体予想)	3,050 (2,900)	△317 (42)

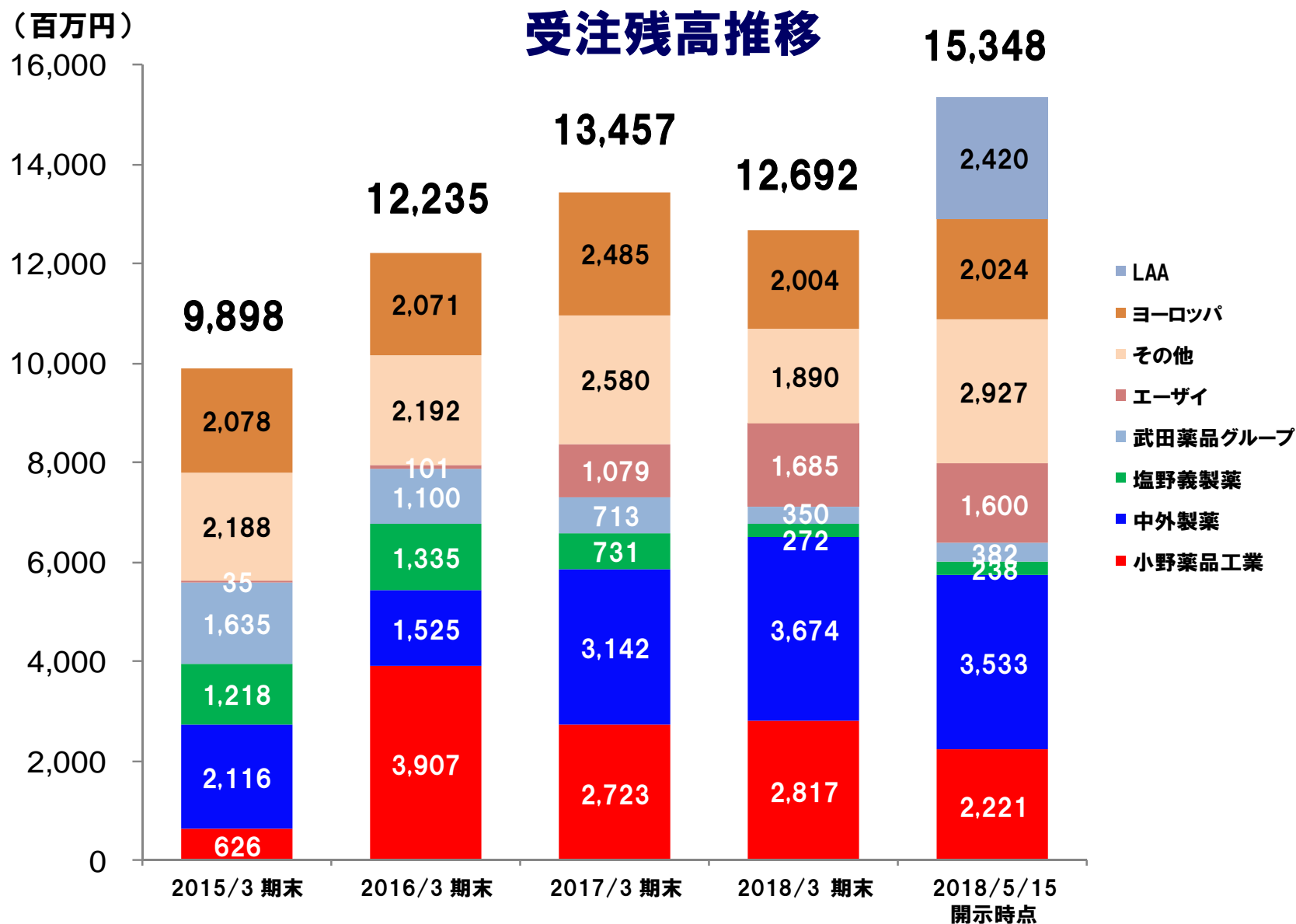
※Linical Accelovance America(LAA)の買収により発生するのれんは、総額3,101百万円、償却期間16年(年間償却額193百万円)を想定しております。

※のれんの総額、償却期間は、Purchase Price Allocationによる無形固定資産の認識等や今後の監査過程等により変更される可能性があります。

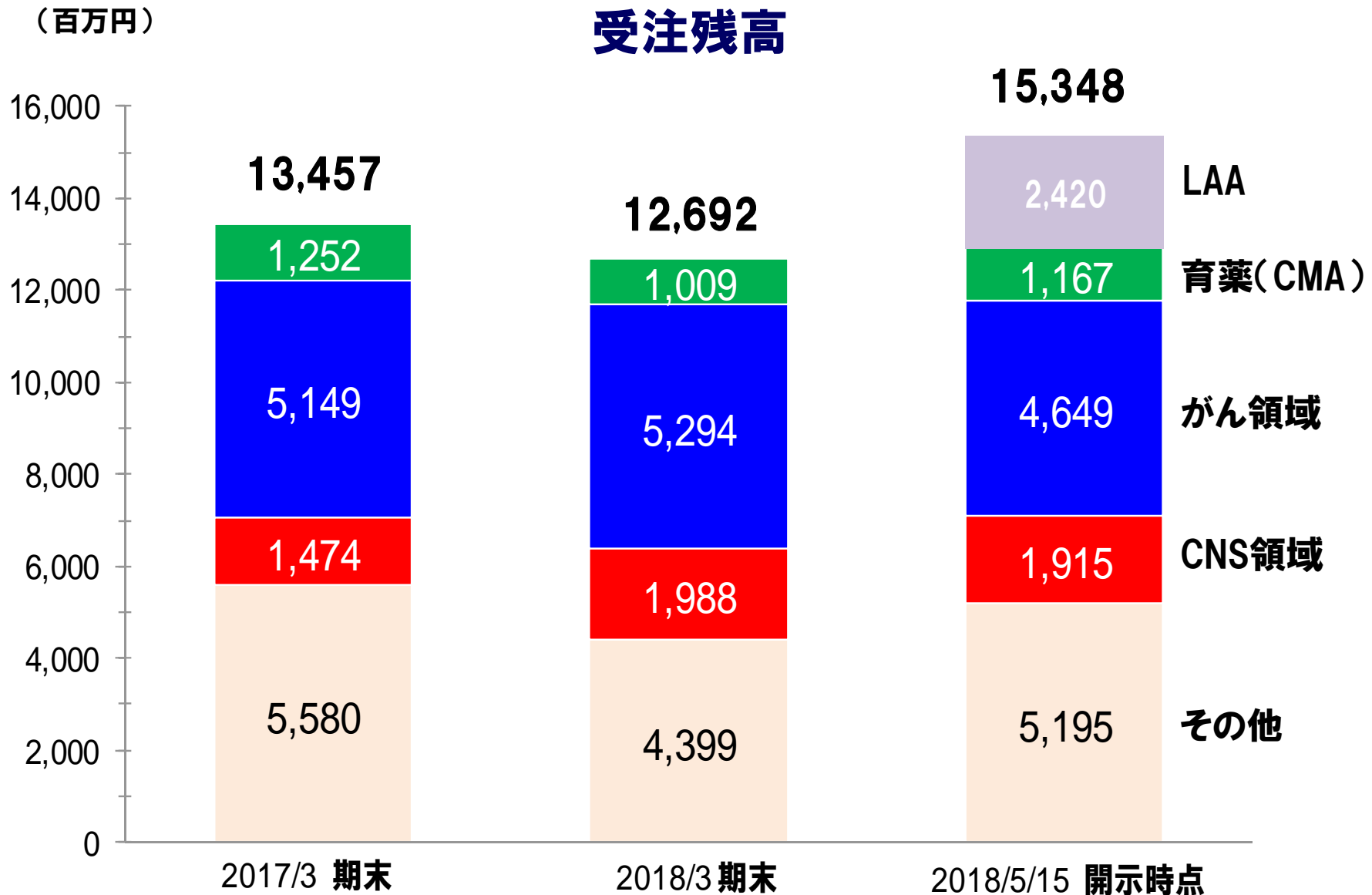
既存案件の本格稼働 新規案件獲得等により増収



既存案件の残高を 順調に消化しつつ新規・変更受注



既存案件の残高を 順調に消化しつつ新規・変更受注



今期連結業績予想



	2018/3期 実績		2019/3期 予想		
	金額(百万円)	百分比%	金額(百万円)	百分比%	増減率%
売上高	9,113	100.0	13,100	100.0	43.7
営業利益	1,846	20.3	2,031	15.5	10.0
経常利益	1,826	20.0	1,993	15.2	9.1
当期純利益	1,295	14.2	1,329	10.1	2.5
	金額(円)	配当性向%	金額(円)	配当性向%	
1株当配当金	11	19.3	12	20.5	

2. 経営戦略

当社グループの事業ドメイン



CRO

グローバル1,000名体制に向け営業力の強化、質の向上、
新たなプリファード獲得 / Oncology、CNS、Immunologyに加え、
再生医療も強化 / 高稼働率維持
グローバル体制強化による国際共同治験のワンストップ受託の促進

育薬(CMA : Contract Medical Affairs)

拡大する企業主導臨床研究関連業務の外注ニーズへの対応
メディカルサイエンティフィックリエゾン業務による学術サポート

創薬支援

開発計画立案から薬事当局対応まで幅広いサービスを提供
創薬ファンドの活用

主力であるCRO事業の拡充



国内

新たなプリファード獲得 / Oncology、CNS、Immunologyに加え、再生医療も強化 / 高稼働率維持 /

グローバル

グローバル1,000名体制に向け営業力の強化、質の向上、グローバル体制強化による国際共同治験のワンストップ受託の促進

米国

2008年 7月 LINICAL USA, INC. 設立

2018年 4月 **Accelovance, Inc.を買収**

Linical Accelovance America, Inc.に社名変更

アジア

2013年 5月 LINICAL TAIWAN CO., LTD.設立

2013年 5月 LINICAL KOREA CO., LTD.設立

2014年 4月 LINICAL KOREA、P-PRO. KOREAを統合

2015年11月 Linical Singapore Pte. Ltd.設立

欧州

2014年11月 Nuvisan CDD Holding GmbHを買収

2014年12月 Linical Europe Holding GmbHに社名変更

2016年 3月 LINICAL U.K. 設立

2016年10月 LINICAL POLAND設立

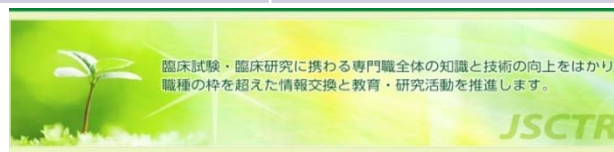
2017年 9月 LINICAL Czech設立

GCPパスポート認定試験

	リニカル	その他	全体
第1回	123/133 (92.5%)	78/99 (78.8%)	201/232 (86.6%)
第2回	20/21 (95.2%)	115/180 (63.9%)	135/201 (67.2%)
第3回	23/23 (100%)	52/104 (50.0%)	75/127 (59.1%)
第4回	8/8 (100%)	46/112 (41.1%)	54/120 (45.0%)
第5回	27/29 (93.1%)	54/87 (62.1%)	81/116 (69.8%)
第6回	10/12 (83.3%)	78/123 (63.4%)	88/135 (65.2%)
第7回	25/26 (96.2%)	79/125 (63.2%)	104/151 (68.9%)
第8回	20/20 (100%)	166/217 (76.5%)	186/237 (78.5%)
第9回	37/38 (97.4%)	133/158 (84.2%)	170/196 (86.7%)
第10回	20/20 (100%)	196/215 (91.2%)	216/235 (91.9%)
第11回	38/38 (100%)	171/198 (86.4%)	209/236 (88.6%)
第12回	19/23 (82.6%)	137/208 (65.9%)	156/231 (67.5%)
第13回	41/44 (93.2%)	205/259 (79.2%)	246/303 (81.2%)
第14回	22/25 (88.0%)	239/306 (78.1%)	261/331 (78.9%)
第15回	50/50 (100%)	176/274 (71.3%)	226/297 (77.9%)

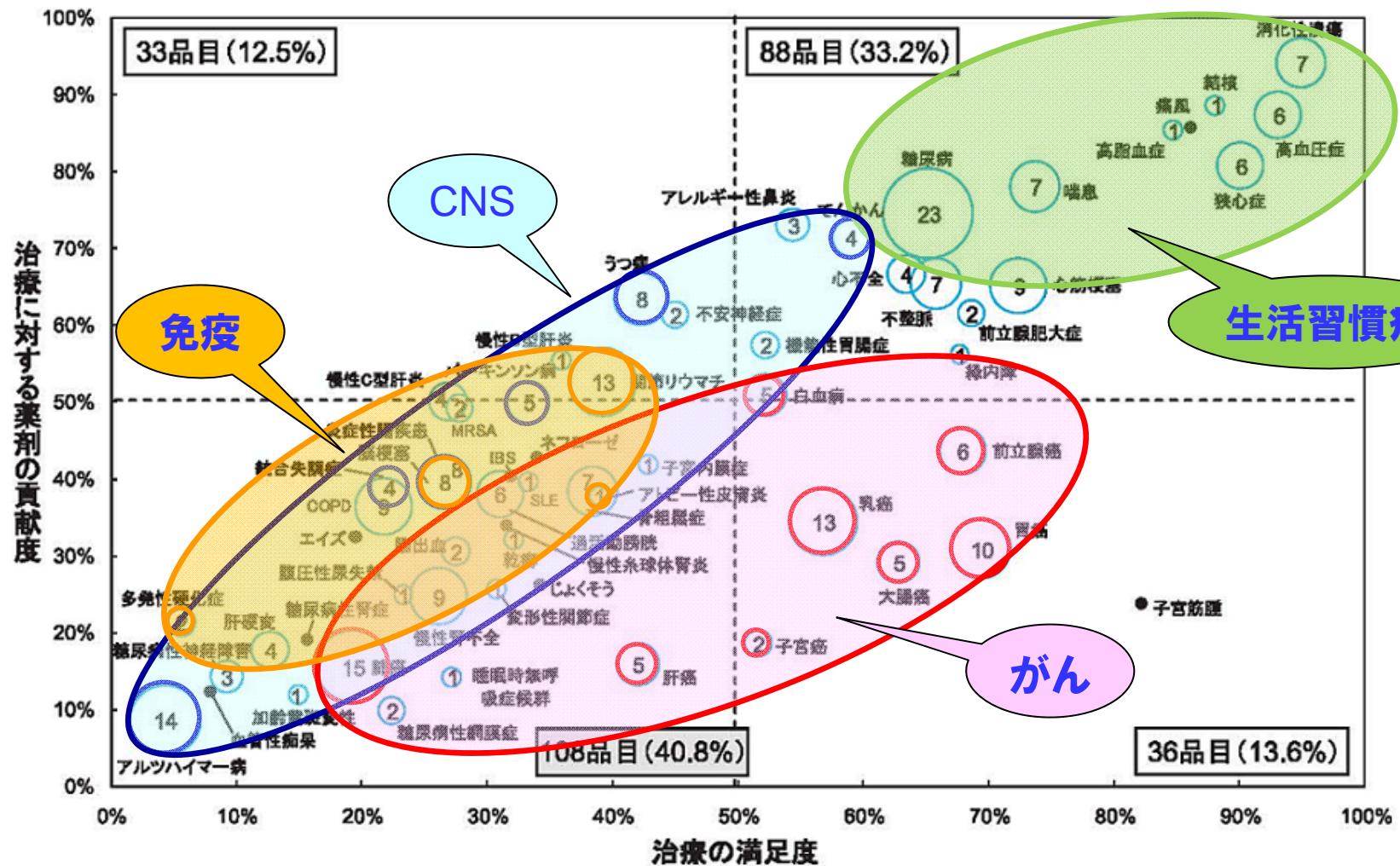


一般社団法人 日本臨床試験学会
Japan Society of Clinical Trials and Research



治療満足度・薬剤貢献度(2005年時点)別 新薬開発件数(2006-2009年)

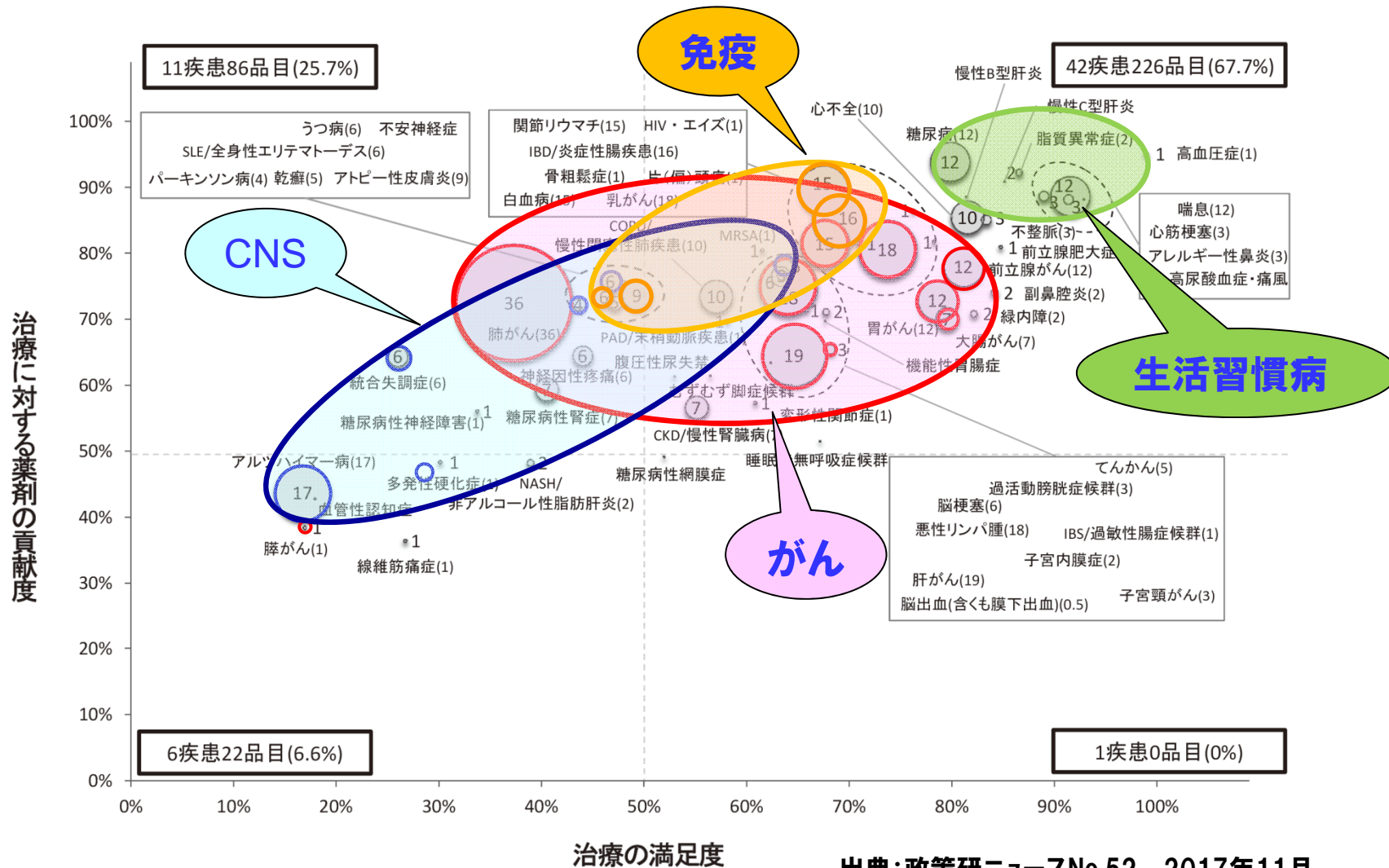
CRO国内



出典:政策研ニュースNo.31 2010年10月

治療満足度・薬剤貢献度(2014年時点)別 新薬開発件数(2017年6月時点)

CRO国内



出典:政策研ニュースNo.52 2017年11月

	Oncology	CNS	Primary	CMA※
Protocol	47	40	73	19
On-going	28	10	14	11
Global Study	21	10	11	4
J/K/T	3 <small>(NSCLC/固形がん/食道がん)</small>	--	2 <small>(強直性脊椎炎/関節リウマチ)</small>	1 <small>(関節リウマチ)</small>
J/K or K	--	1 <small>(てんかん)</small>	1 <small>(血友病A)</small>	--
J/US/EU	1 <small>(肝細胞がん)</small>	--	--	--
J/EU	--	--	1 <small>(クローン病)</small>	--
Sponsor	12	13	18	10

※CMA実績はOncology, CNS, PrimaryからCMA案件を抽出した実績をお示ししております

2018年3月末現在

CRO国内

受託実績_Oncology (CMA含む)



Phase	Phase I	Phase I / II	Phase II	Phase II / III	Phase III	Others
No. of Protocol	6	3	11	1	24	2

固形がん	No. of Protocol	血液がん	No. of Protocol
肺がん	13	多発性骨髄腫	2
前立腺がん	5	非ホジキンリンパ腫	2
卵巣がん	3	末梢性T細胞リンパ腫	1
固形がん	3	皮膚T細胞性リンパ腫	1
乳がん	2	慢性リンパ性白血病	1
大腸がん	2		
食道がん	2		
腎がん	1		
子宮頸がん	1		
子宮体がん	1		
軟部肉腫	1		
膀胱がん	1		
肝細胞がん	1		

支持療法	No. of Protocol
がん性疼痛	4
がん悪液質	2
オピオイド誘発性便秘症	2
小児がんにおける制吐剤	1

2018年3月末現在

CRO国内

受託実績_CNS (CMA含む)



Phase	Phase I	Phase II	Phase II / III	Phase III	Others
No. of Protocol	2	10	4	20	4

疾患名	No. of Protocol
アルツハイマー型認知症	10
パーキンソン病	8
大うつ病	5
統合失調症	4
注意欠如・多動症 (成人)	2
注意欠如・多動症 (小児)	2
脊髄性筋萎縮症 (小児)	2
睡眠障害	2
視神経脊髄炎	1
慢性炎症性脱髄性多発根神経炎	1
多巣性運動ニューロパチー	1

疾患名	No. of Protocol
ギラン・バレー症候群	1
てんかん	1

2018年3月末現在

CRO国内

受託実績_Primary (CMA含む) 1 / 2



Phase	Phase I	Phase II	Phase II / III	Phase III	Others
No. of Protocol	2	17	3	44	10
免疫		No. of Protocol	泌尿器・腎臓・内分泌		No. of Protocol
潰瘍性大腸炎(小児含む)		4	腎性貧血		2
クローン病		4	糖尿病		2
関節リウマチ		3	肥満症		2
通年性アレルギー鼻炎(小児含む)		3	高リン血症		2
季節性アレルギー鼻炎		3	透析掻痒症		1
全身性強皮症		2	過活動膀胱		1
強直性脊椎炎		1	高トリグリセリド血症		1
消化器・肝臓		No. of Protocol	二次性甲状腺機能亢進症		1
潰瘍予防		4	疼痛・整形外科		No. of Protocol
C型肝炎		2	骨粗鬆症		2
血小板減少症		1	慢性腰痛症		2
肝硬変(肝性浮腫)		1	痔術後疼痛		1
胃食道逆流症		1	非癌性疼痛		1

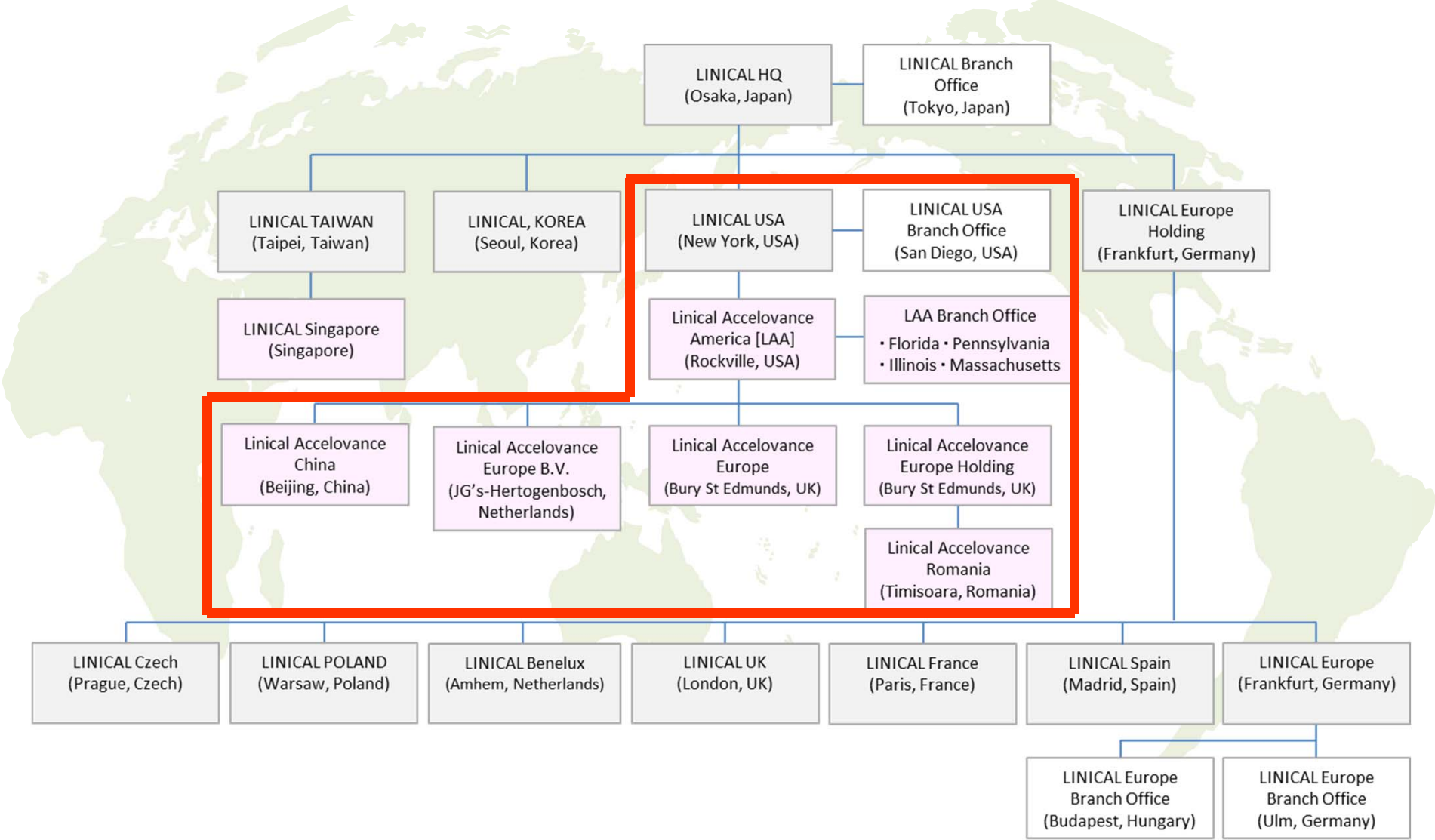
2018年3月末現在

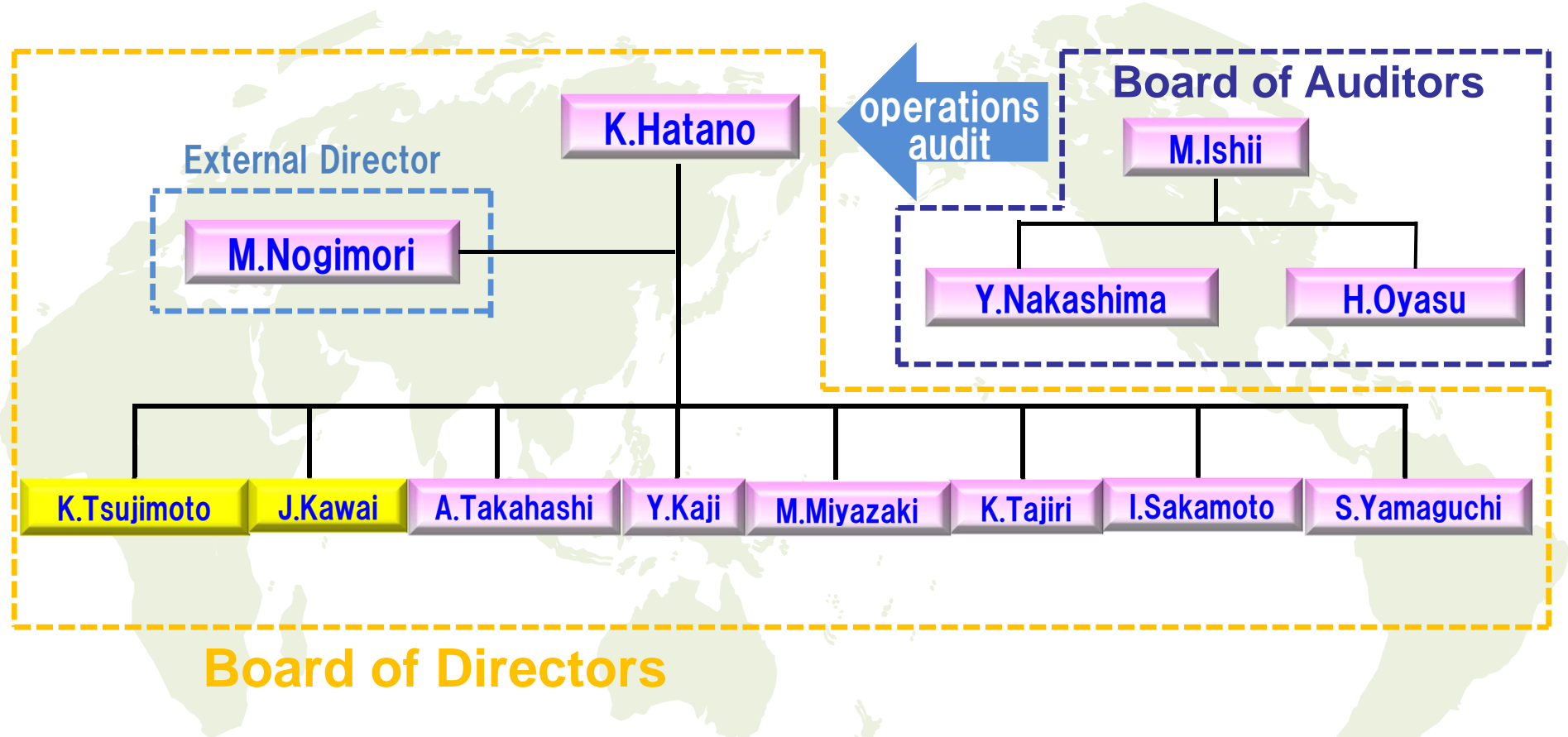
CRO国内

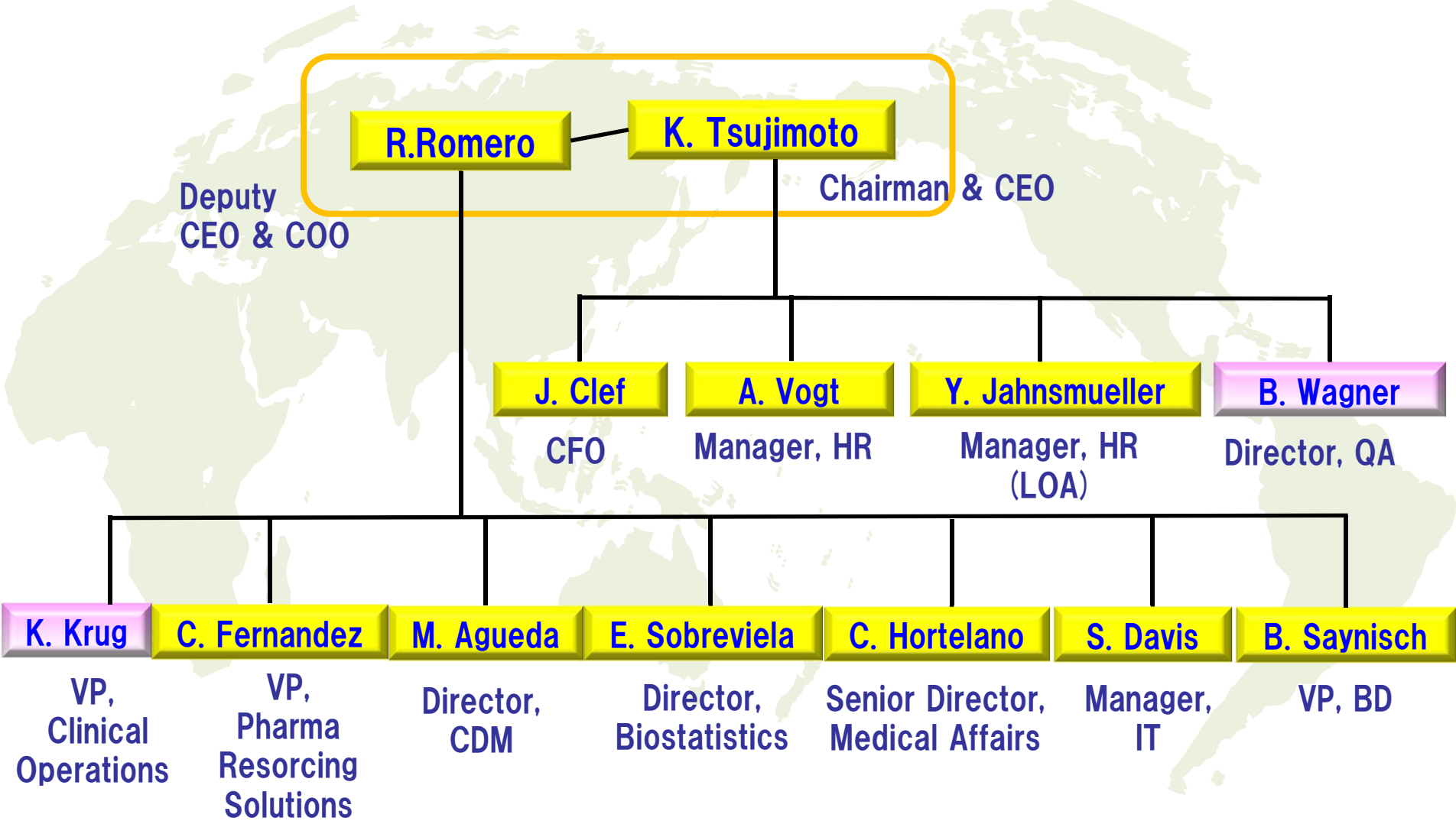
受託実績_Primary (CMA含む) 2/2

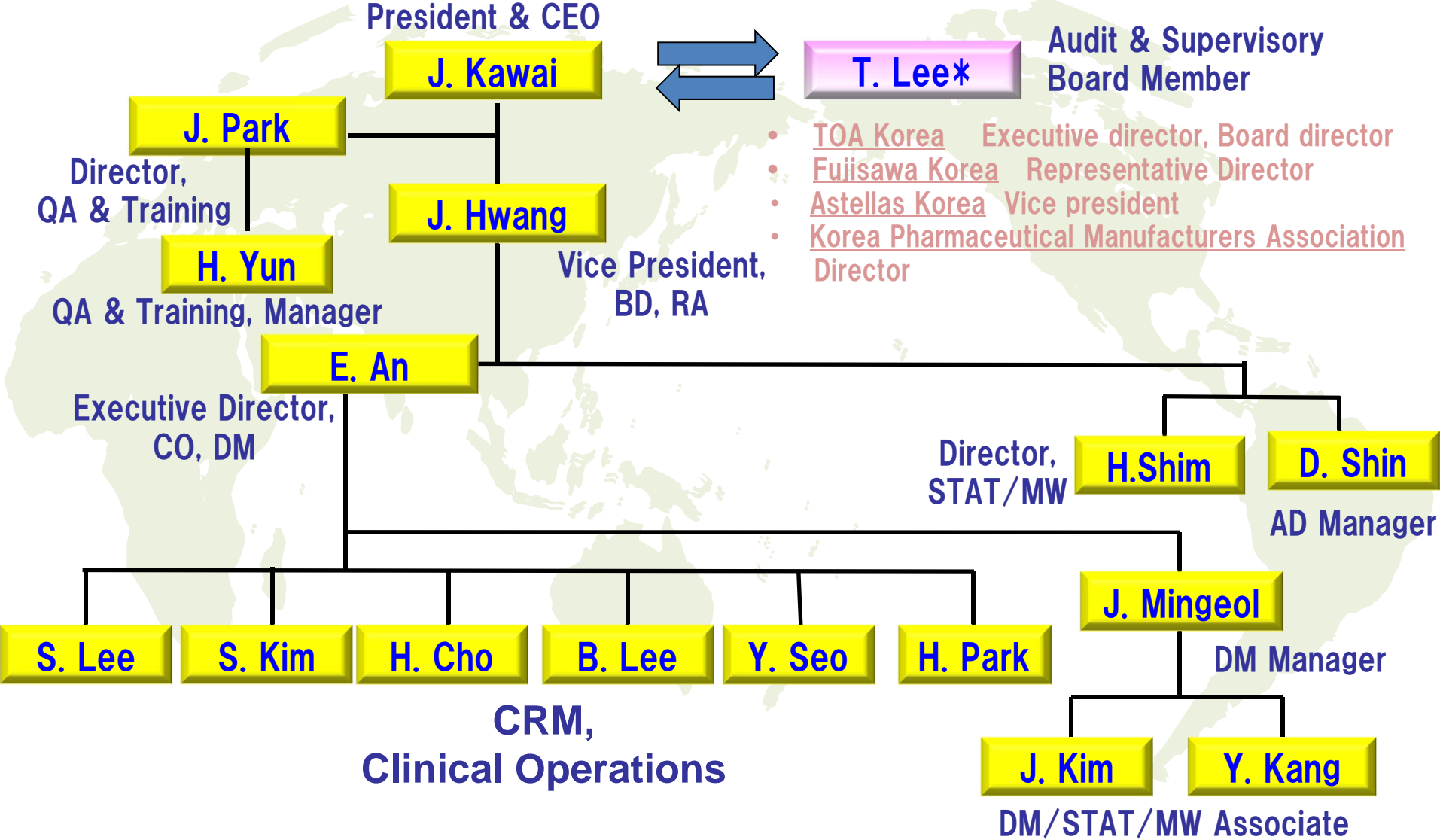


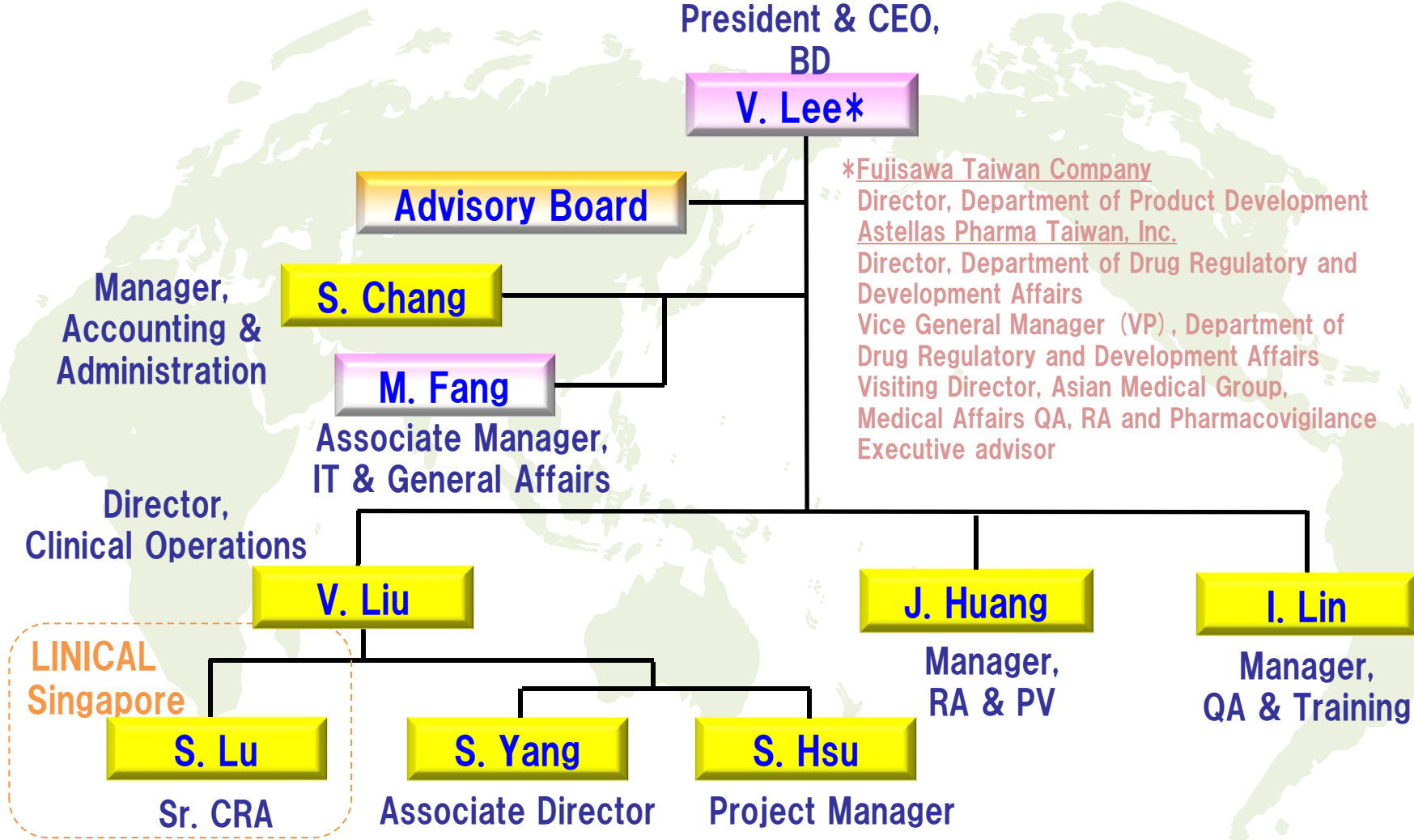
循環器・血液内科	No. of Protocol	呼吸器・感染症	No. of Protocol
抗血小板薬	3	インフルエンザ(小児含む)	5
高血圧症	2	気管支喘息	1
抗凝固薬	2	気管支喘息+COPD	1
心不全	1	細菌感染症	1
敗血症	1	眼科	No. of Protocol
血友病A	1	加齢性黄斑変性症	2
冠動脈疾患	1	血管新生緑内障	2
心房細動	1	皮膚科	No. of Protocol
静脈血栓塞栓症	1	尋常性乾癬	1

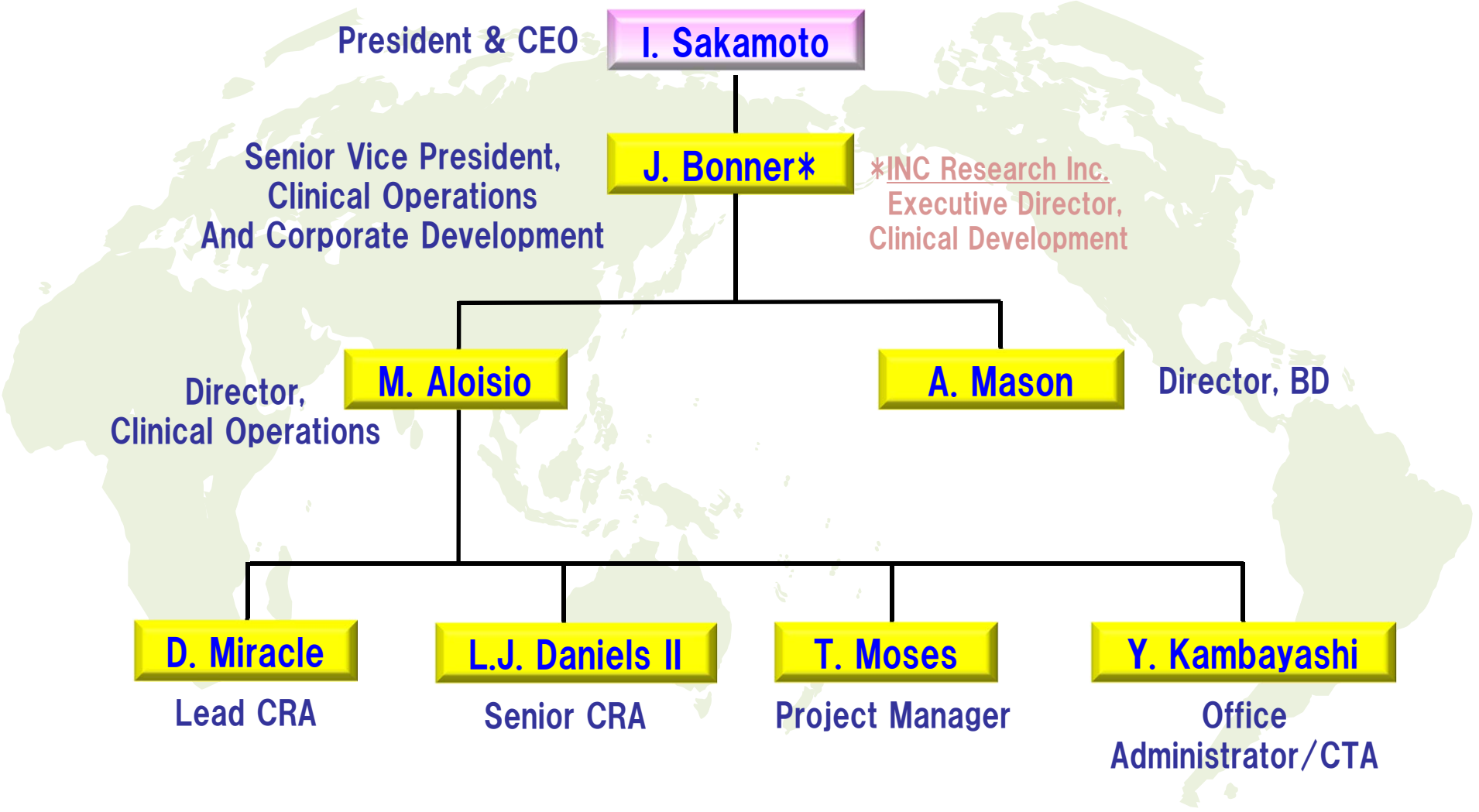


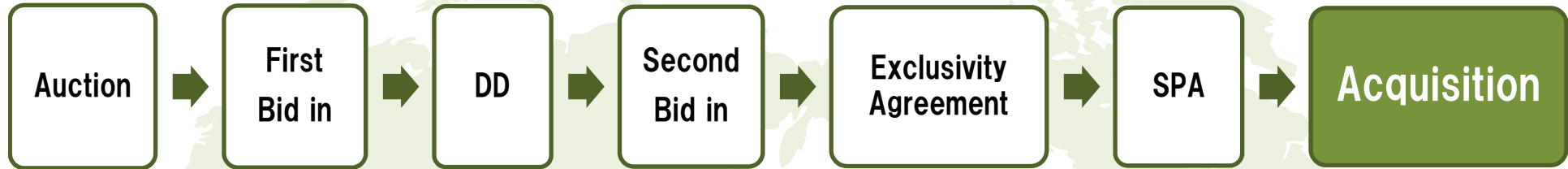




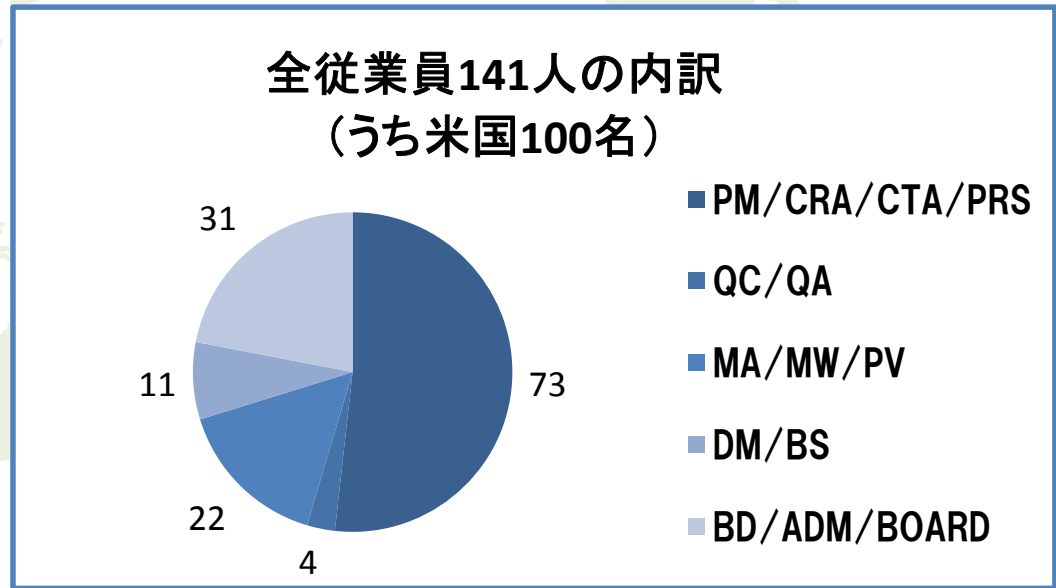


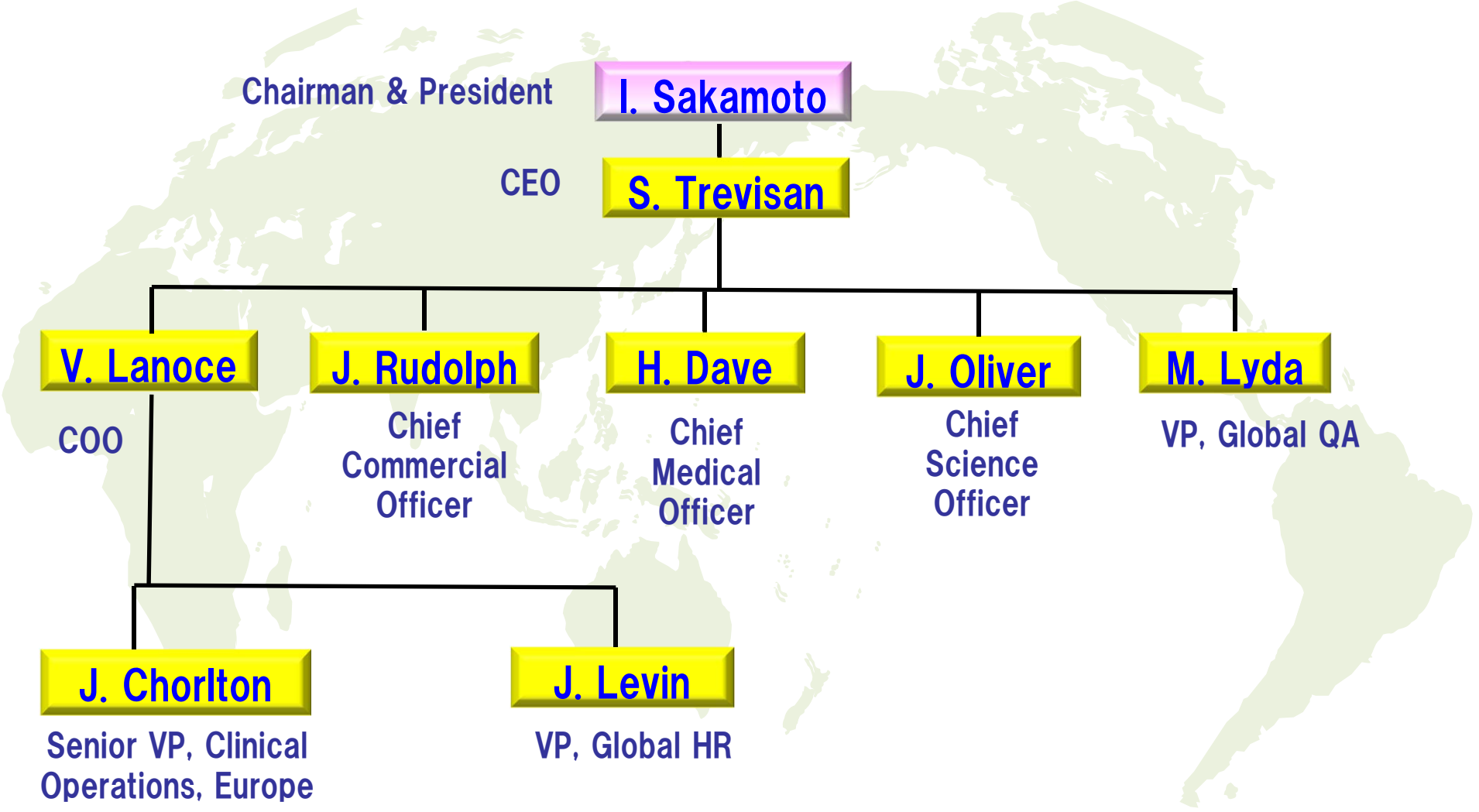






Area	
USA	Chicago
	Philadelphia
	Boston
	Florida
EU	UK
	Netherlands
	Romania
Asia	China





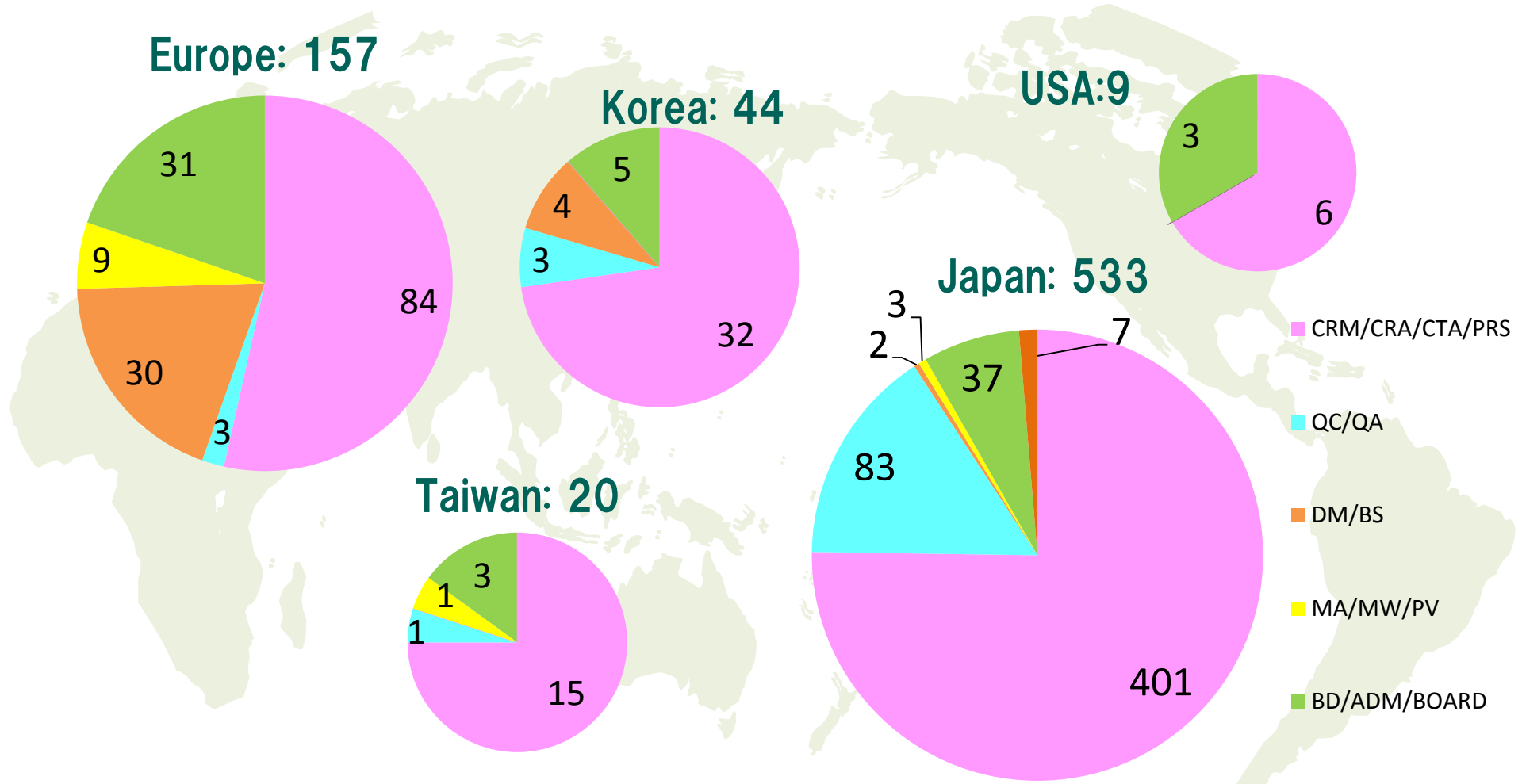


直接サービスを提供できる国:
日本、米国、韓国、台湾、シンガポール、ドイツ、フランス、スペイン、オランダ、ポルトガル、イギリス、ベルギー、スイス、イタリア、オーストリア、スロバキア、ハンガリー、ウクライナ、ロシア、ポーランド、チェコ、**ルーマニア、中国、カナダ**

Global Headcounts in April 2018



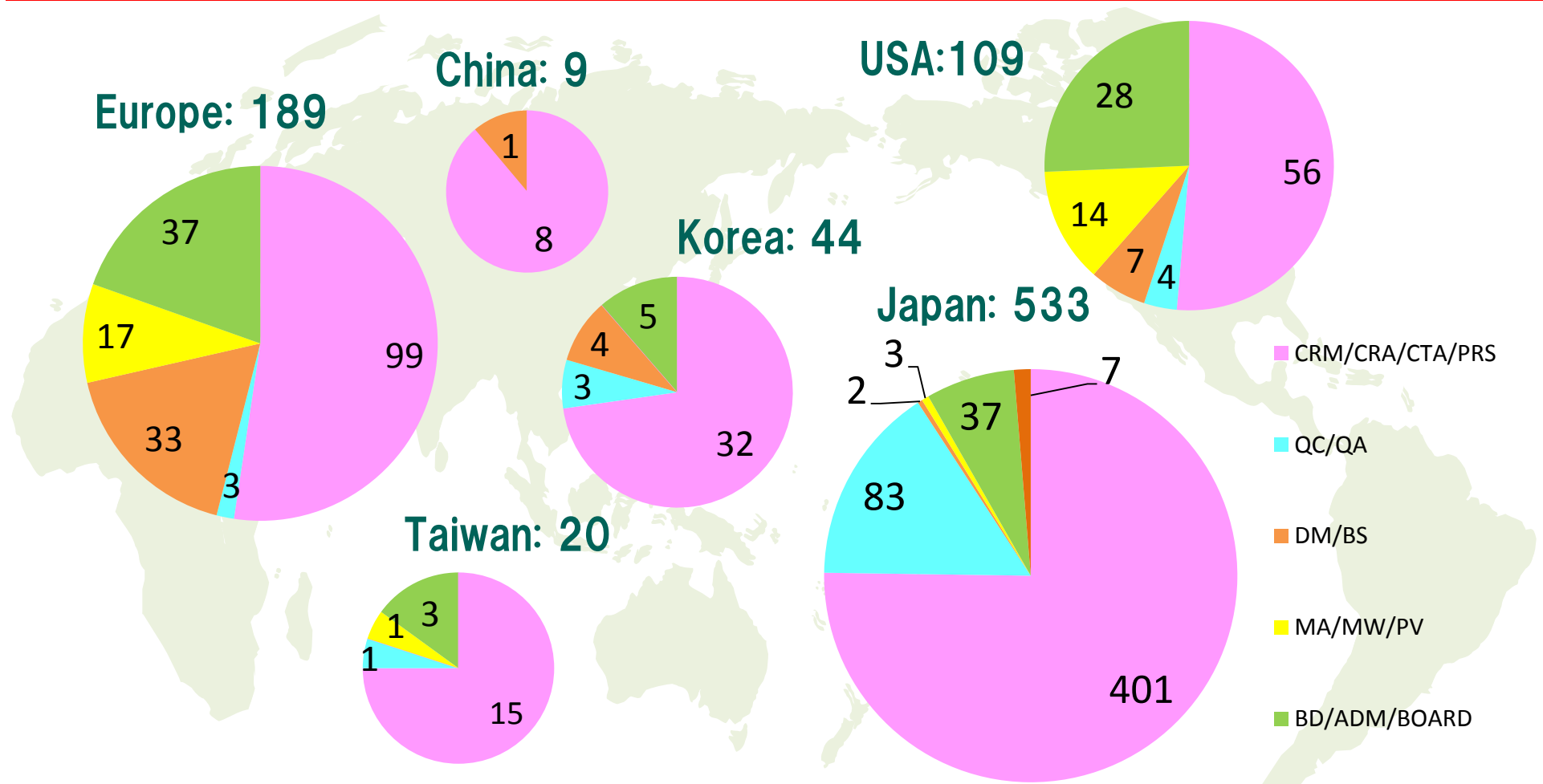
CROグローバル



Total: 763
PM/CRA/CTA/PRS: 538

PRS: Pharma Resourcing Solutions

Global Headcounts (+ Linical Accelovance)



Total: 904
PM/CRA/CTA/PRS: over 600

PRS: Pharma Resourcing Solutions

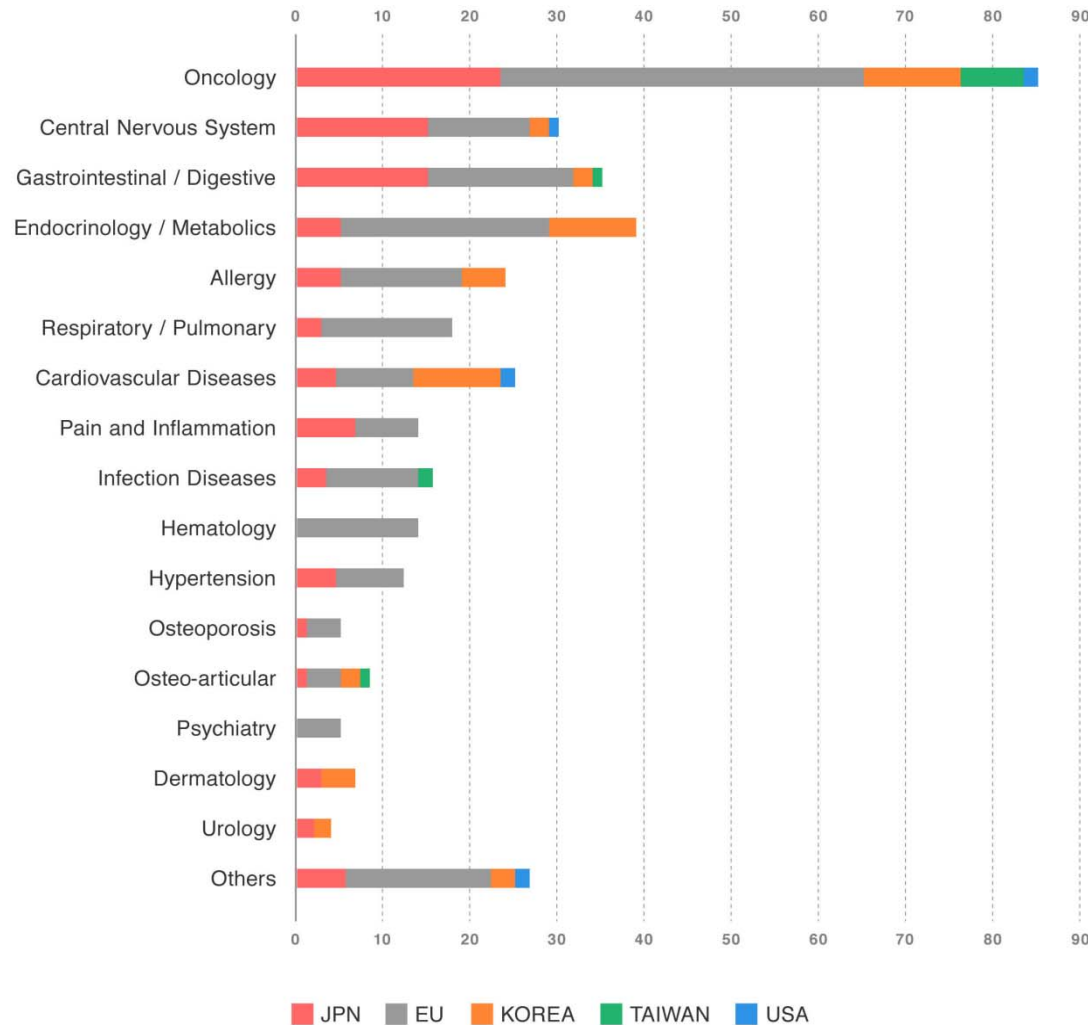
Our performance

CROグローバル

(World wide : past 5 years)

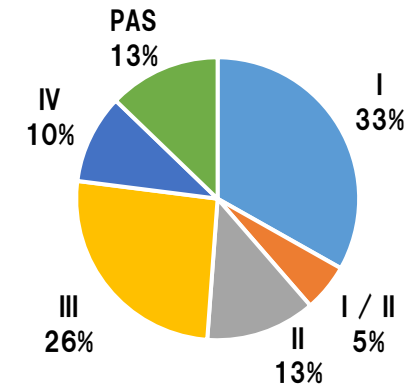


Linical Group Performance



- Approximately 9,000 sites
- Approximately 106,000 patients

Studies by Phase



HQs	12people	11CRAs (including candidates)
		1QC/QA
LA China	9people	8CRAs
LT	20people	15CRAs (excluding Singapore)
		1QC/QA

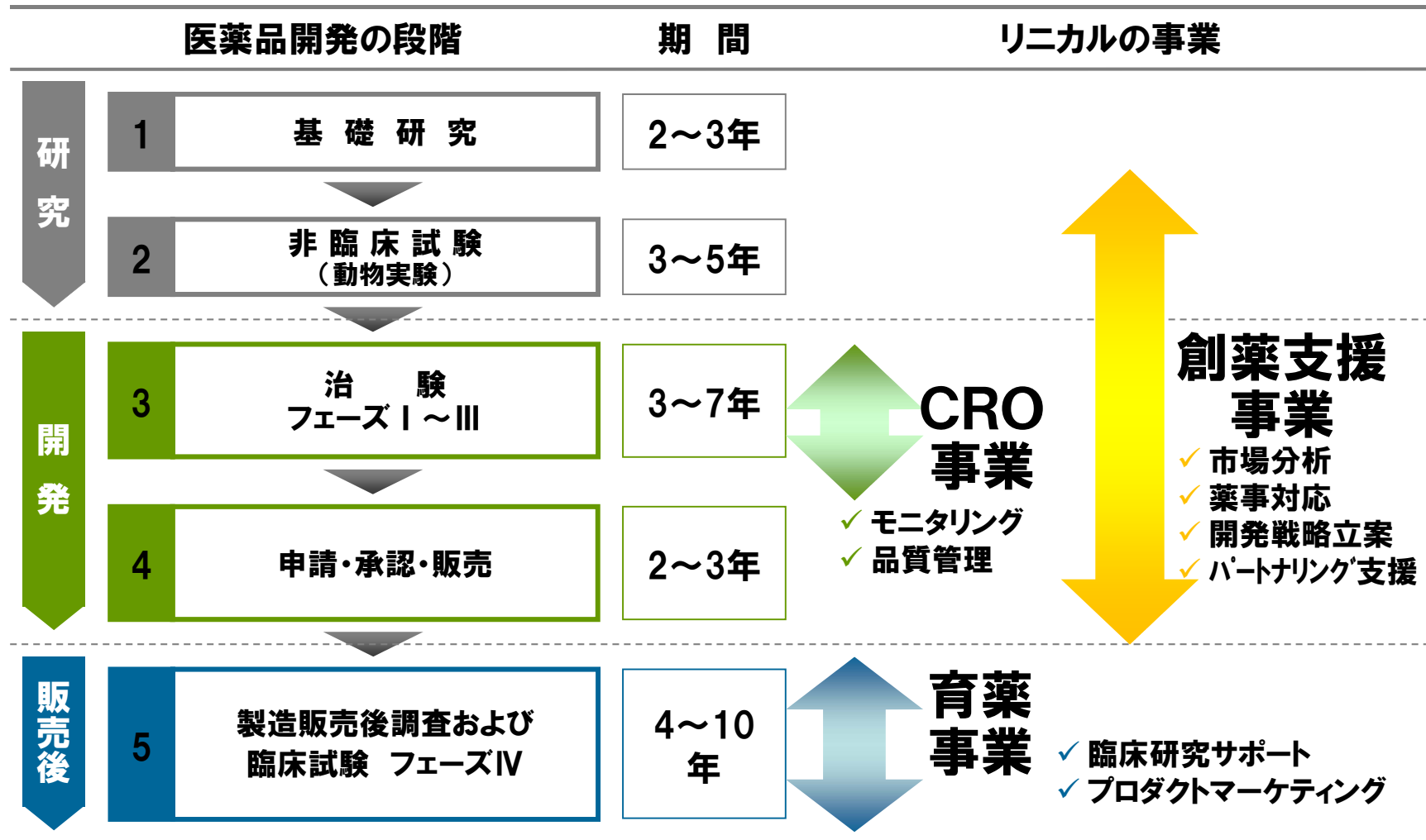
How to handle China business!!

利益の確保

全体	従業員1,000名体制確立
日本	Oncology、CNS、Immunologyに加え、再生医療にも特化
欧州	競争力強化により利益率向上を目指す
韓国	①早急に50名規模まで拡大 ②2期連続の黒字化を土台に高収益体質を確立する

積極的に投資拡大

米国	①M&Aの成功:Linical Accelovance America, Inc. 発足 ②ビジネスの中心と位置づけ育成
台湾	①早急にCRA20名規模まで拡大 ②シンガポール子会社を含めた新規案件の獲得 ③中国への進出検討 (Linical Accelovance Chinaを核として拡大)
欧州	①ポーランド、チェコ子会社設立完了 さらなる増員と拠点拡大検討 ②Linical Accelovance Europeの強化



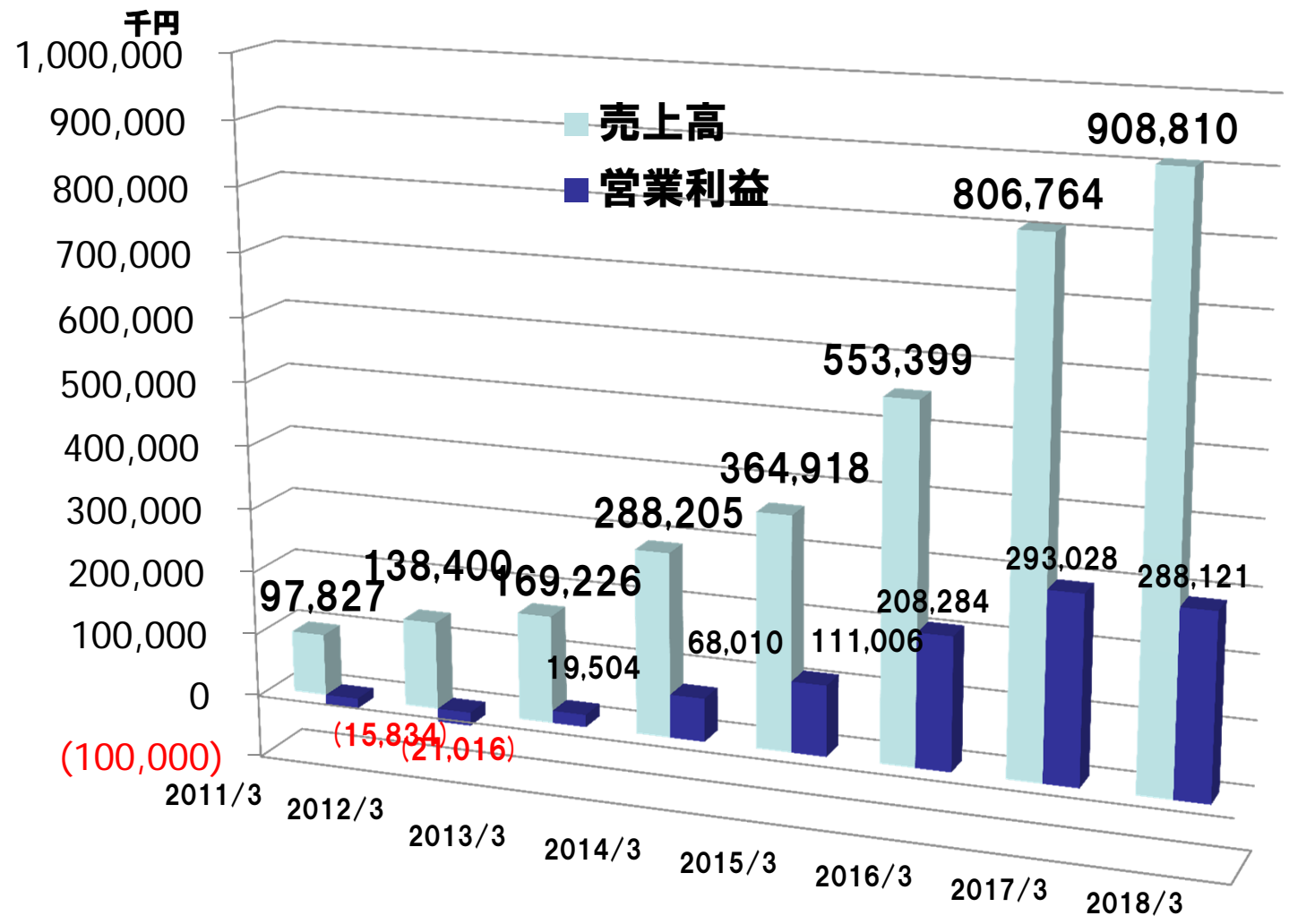
CRO事業部で蓄積した人材教育・マネジメントノウハウを活用

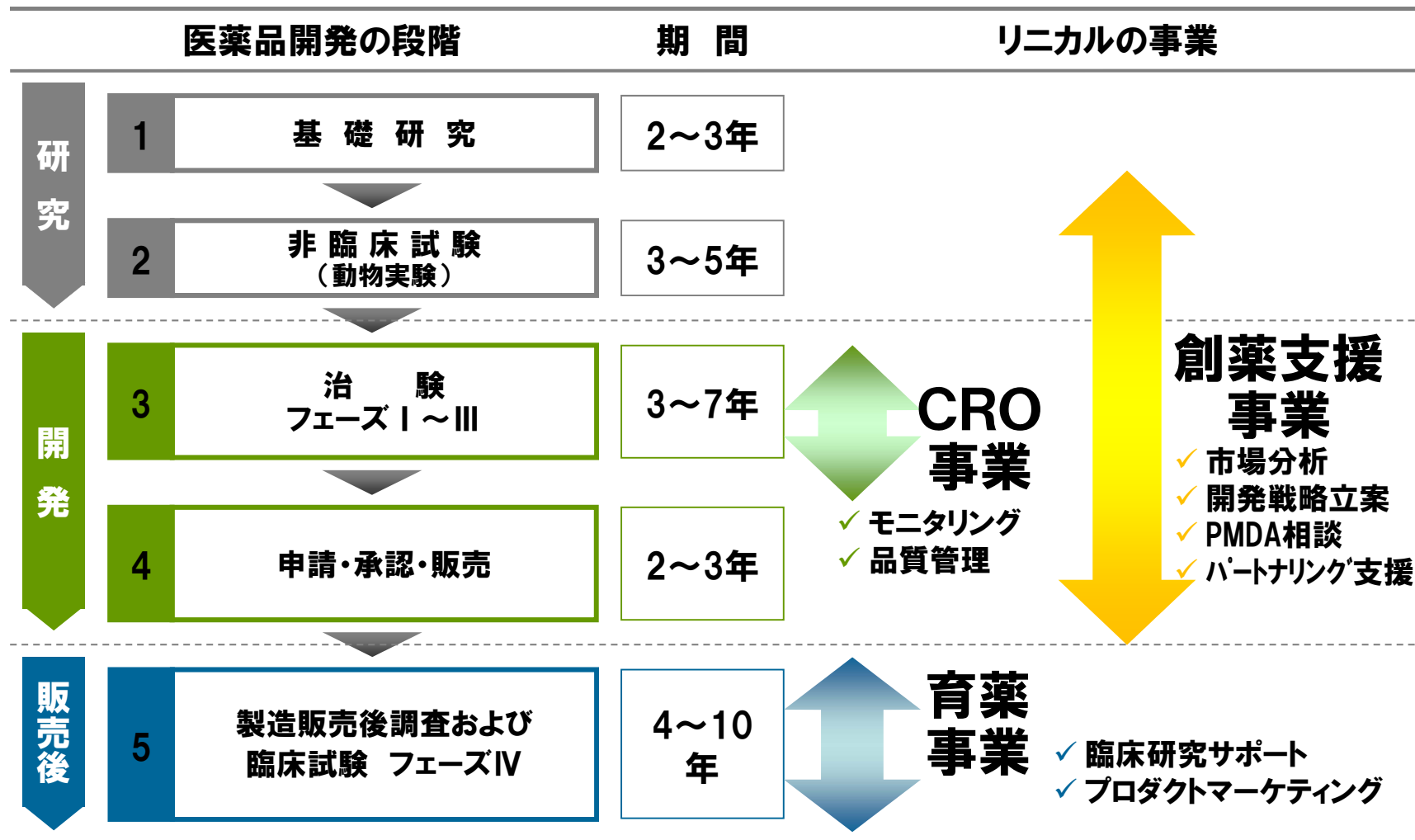
＜臨床研究のサポート業務受託＞

- エビデンス創出のための臨床研究は質の確保が課題
- 手順書作成などの体制構築サポート
- モニタリング、監査などの実施

＜プロダクトマーケティング(リエゾン)業務受託＞

- 未経験領域の新製品上市に伴う新規医療機関・医師開拓
- 製品差別化戦略の提案・実行





コンサルティング契約状況

契約状況	製品/技術	開発会社	適応疾患	開発段階
締結済み* (2016年7月～)	核酸	日本	呼吸器疾患	Phase I 準備 (米国)
締結済み (2016年10月～)	再生医療製品	韓国	免疫疾患	Phase II (韓国)
締結済み (2016年12月～)	抗体	台湾	感染症	非臨床
締結済み* (2017年7月～)	抗体	日本	悪性腫瘍	非臨床
締結済み* (2017年10月～)	診断薬	台湾	神経変性疾患	Phase I/IIa (米国)
締結済み (2018年2月～)	アプリケーション ソフトウェア	日本	睡眠障害	非臨床
締結中 (2018年5月～)	パッチ製剤を用いた減 感作療法	フランス	アレルギー	Phase I (日本)

コンサルティング契約から発展したモニタリング契約状況

契約状況	製品/技術	開発会社	適応疾患	開発段階
締結中 (2018年5月～)	再生医療製品	韓国	免疫疾患	Phase I / II (日本)

*創薬ファンドからの投資も活用

日本の行政当局

- 日本発の革新的な医薬品・医療機器を世界に先駆けて実用化したい



- PMDAは開発初期から指導・助言を実施する薬事戦略相談を開始(H23.7月) [H294月からレギュラトリー戦略相談へ名称変更]
- 日本再興戦略(H25.6月閣議決定)
- 再生医療等安全性確保法(H25.11月公布)
- 医薬品医療機器法(H25.11月公布)
- 健康・医療戦略推進法、独立行政法人日本医療研究開発機構法(H26.5月公布)
- 先駆け審査指定制度を創設(H27.4月)

韓国・台湾の行政当局

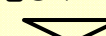
- 国際的な競争力を高め、新医薬品を創出していきたい



- 自国の医薬品産業に対する奨励・優遇措置
- 人材育成、融資及び低金利ローン、優遇税
- バイオベンチャーの上場をサポート
- 海外企業との提携を支援

国内外のバイオベンチャー

- 医薬品市場世界第3位の日本で自社製品を開発・販売したい



- 日本にプレゼンスがない
- 日本のレギュレーションに不案内
- 開発・販売のためにはパートナーが必要
- 十分な開発資金がない
- ライセンス・事業開発の専門家が社内にはいない

まとめ

CRO

グローバル1,000名体制に向け営業力の強化、質の向上、
新たなプリファード獲得 / Oncology、CNS、Immunologyに加え、
再生医療も強化 / 高稼働率維持
グローバル体制強化による国際共同治験のワンストップ受託の促進

育薬(CMA : Contract Medical Affairs)

拡大する企業主導臨床研究関連業務の外注ニーズへの対応
メディカルサイエンティフィックリエゾン業務による学術サポート

創薬支援

開発計画立案から薬事当局対応まで幅広いサービスを提供
創薬ファンドの活用

(ご参考) リニカルについて

プロフィール



■ 社 名	株式会社リニカル
■ 本 社 所 在 地	大阪市淀川区宮原1-6-1
■ 設 立	2005年6月7日
■ 代 表 者 名	代表取締役社長 秦野 和 浩
■ 売 上 高	9,113百万円（2018年3月期連結）
■ 資 本 金	214百万円（2018年3月末現在）
■ 従 業 員 数	685名（2018年3月末現在）
■ 連 結 子 会 社	LINICAL USA, INC.、LINICAL TAIWAN CO., LTD.、 LINICAL KOREA CO., LTD.、LINICAL Europe Holding GmbH 他10社
■ 事 業 内 容	製薬会社の医薬品開発における治験の 一部を受託するCRO事業および育薬事業

リニカル誕生の経緯



2004年2月24日

山之内製薬と藤沢薬品が合併の基本合意

2005年3月31日<藤沢薬品の消滅>

午後6時を以って退職

2005年4月1日

山之内製薬と藤沢薬品が合併し、アステラス製薬が発足

2005年6月7日

**藤沢薬品で医薬品開発経験を有するメンバーを中心に、
大阪発 理想の医薬品開発受託(CRO)事業を
目的として、株式会社リニカルを設立**

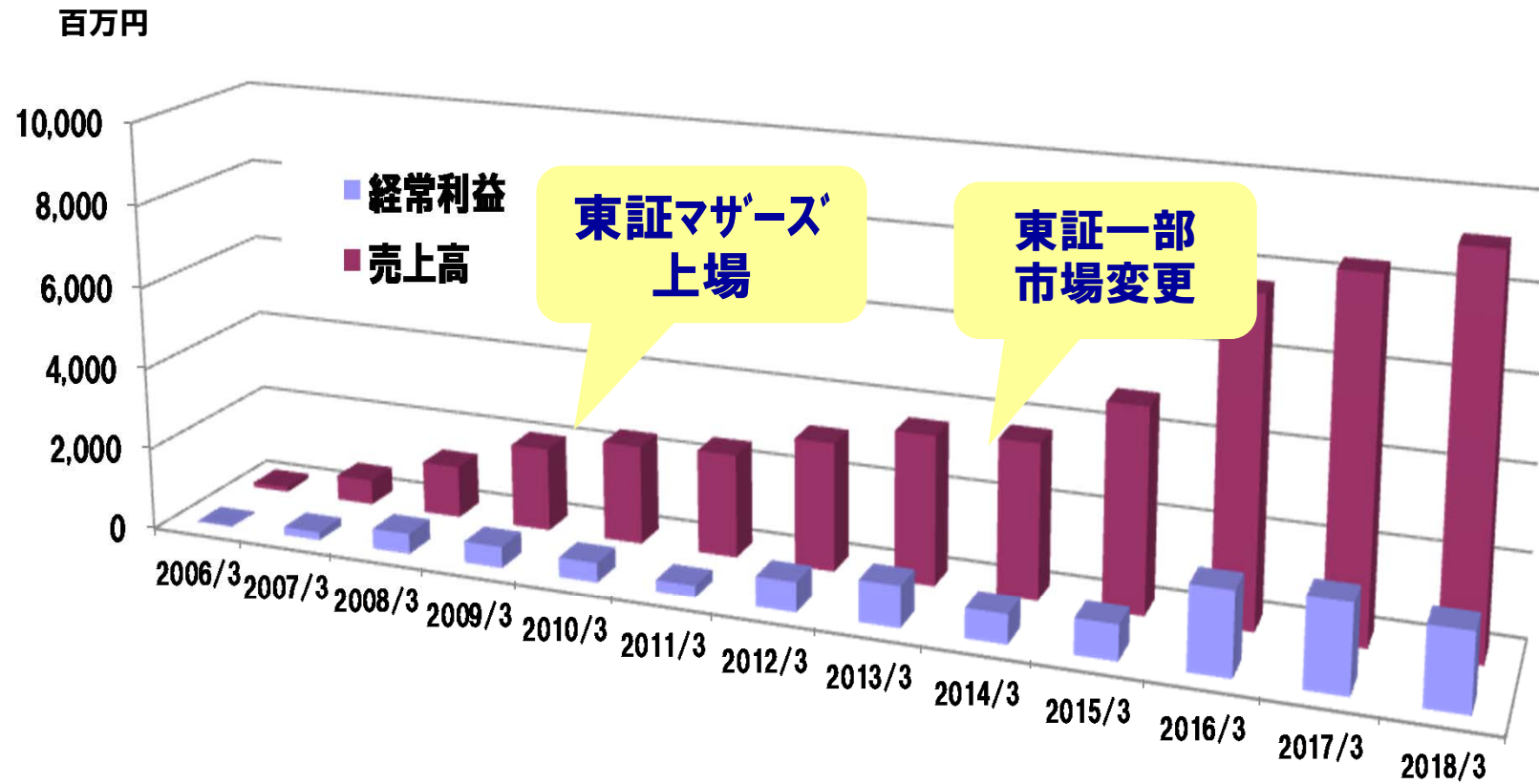
沿革

- 2005. 6 大阪市(西中島)にて創業
- 2005.10 VCより1億円資金調達、増資
- 2006. 6 東京オフィス開設
- 2008. 3 1億9千万円に増資、株式分割
- 2008. 7 LINICAL USA, INC.設立
- 2008.10 東京証券取引所マザーズ市場上場**
- 2013. 3 東京証券取引所第一部市場に市場変更**
- 2013. 5 LINICAL TAIWAN CO., LTD. 設立
LINICAL KOREA CO., LTD.設立
- 2014. 4 LINICAL KOREA にP-PRO. KOREA CO., LTD.を統合
- 2014.11 Nuvisan CDD Holding GmbHを買収
- 2014.12 Linical Europe Holding GmbHに社名変更
日本発のグローバルCRO化
- 2016. 3 LINICAL U.K. LIMITED設立
- 2016.10 LINICAL POLAND sp. z o.o.設立
- 2017. 9 LINICAL Czech Republic s.r.o.設立
- 2018. 4 Accelovance, Inc.を買収
Linical Accelovance America, Inc.に社名変更

創業からマザーズ
上場まで3年4ヵ月

マザーズ上場から
4年4ヵ月で一部
市場に市場変更

売上高・経常利益の推移

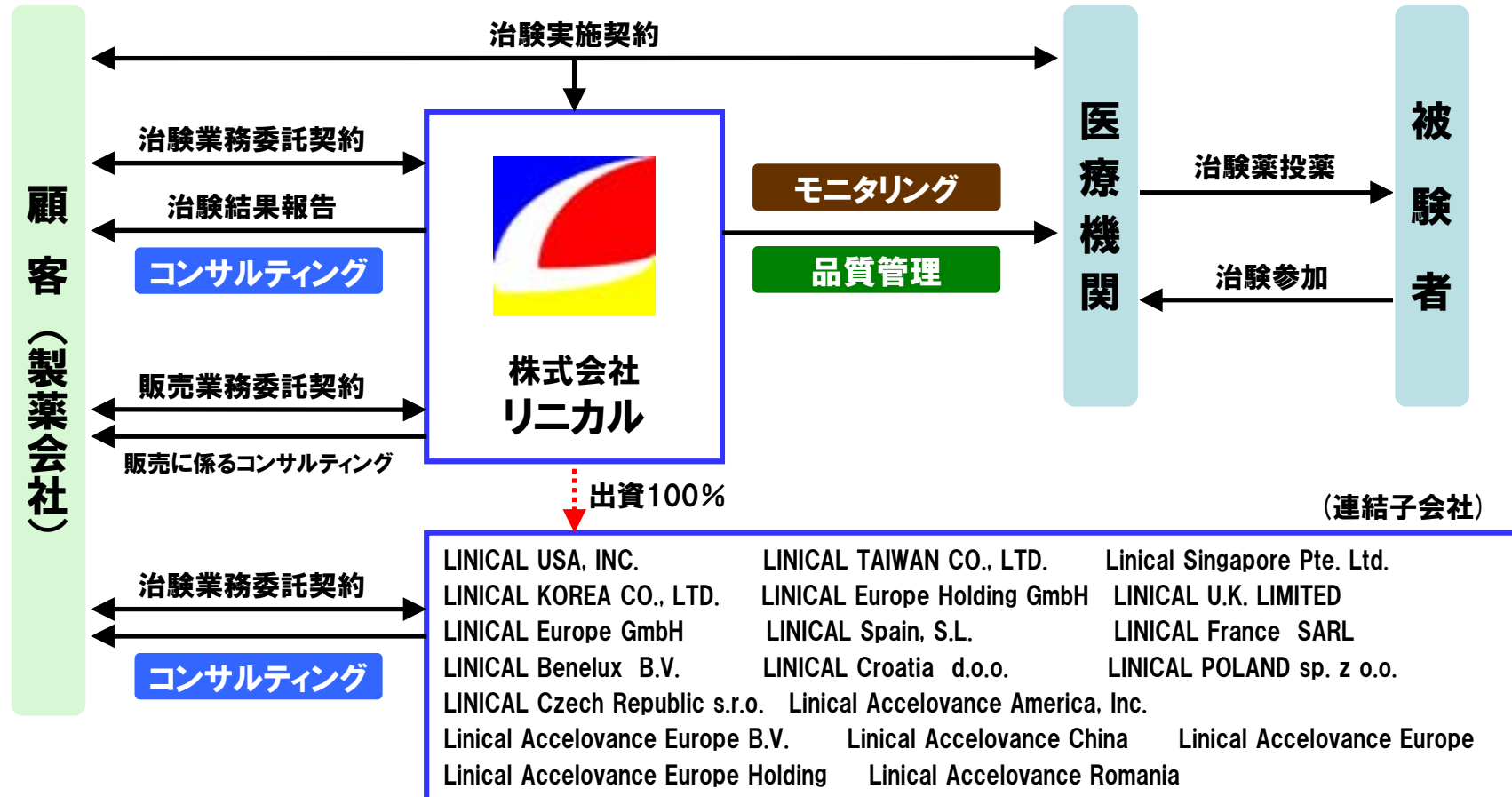


新薬が誕生するまで

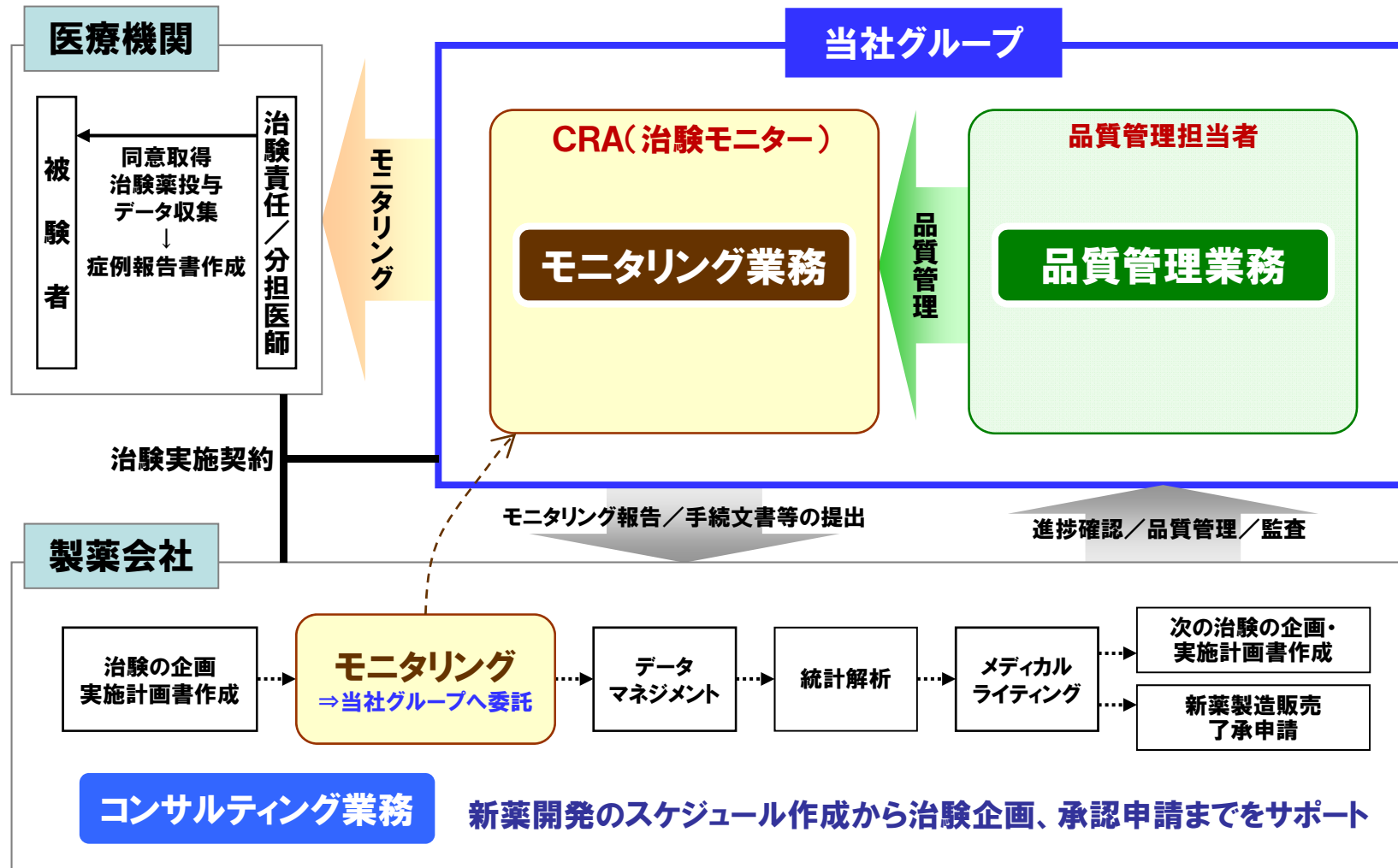
	医薬品開発の段階	期 間	目 的
研究	1 基礎研究	2~3年	新規物質の創製・医薬品候補物質の選別
	2 非臨床試験 (動物実験)	3~5年	実験動物を用いた生体への作用・安全性の検討
開発	3 治 験	3~7年	ヒトを対象とした有効性、安全性、 用法・用量の検討と決定
	4 申請・承認・販売	2~3年	国(厚生労働省)が審査
販売後	5 製造販売後調査および 臨床試験 フェーズIV	4~10年	治験で未検出の副作用・有効性を広範囲に追跡

事業内容

製薬会社の医薬品開発における 治験業務の一部を受託するCRO事業を主に展開



当社グループの業務



当社が目指すCROとは

製薬業界

- 医薬品開発スピードの加速
- 医薬品開発の効率化
- 海外展開、海外治験の拡大

CRO業界

- 参入企業の増加
- CROへの委託増によるCRA不足
- 受注競争・人材獲得競争の激化

〈求められるCRO〉

迅速に治験を進め新薬開発のスピードアップのため、
**製薬会社の開発部門と同等の能力を有し、同等の立場で
医薬品開発を実行・サポートできるCRO**

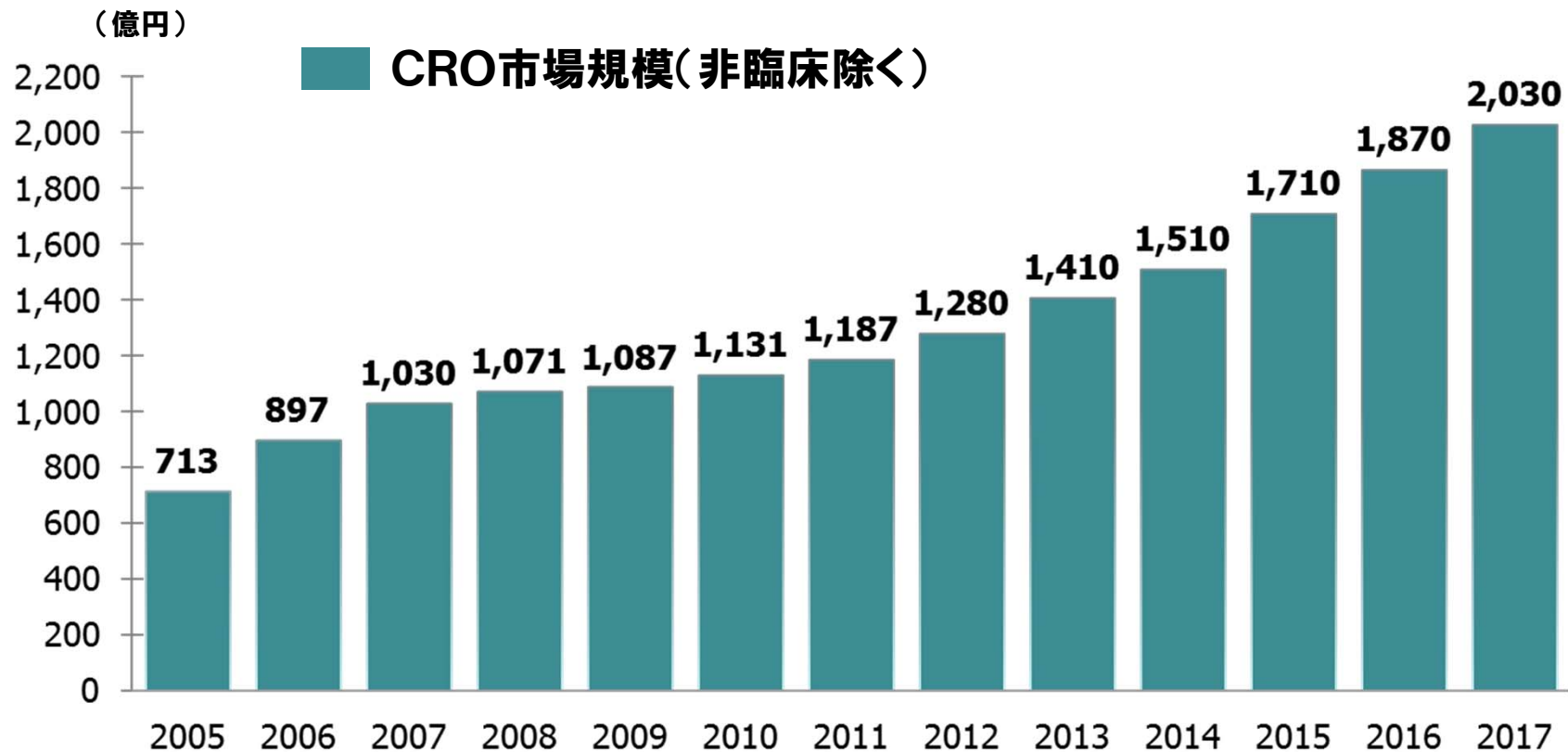
||

戦略的パートナーとしてのCRO

CDO (Contract **Development** Organization)

CROは成長市場

日本市場の1,600億に対しグローバル市場は約3兆円
製薬会社からCROへの外注率は欧・米が50%以上なのに対し、
日本では20%~25%程度に留まっている



出所:ミック経済研究所「治験&営業支援アウトソーシング 市場の現状と展望 I・CRO&CSO編 2012年度版」
※2013年度以降は当社調べ(2017年度は見込)

リニカルとは、「事業特化型CRO」

1 特定業務への特化【ブランド戦略】

- 治験の主要業務であるモニタリング業務、品質管理業務
ならびにコンサルティング業務に特化
- 受託特化型の事業形態

2 特定治験段階への特化【ブランド戦略】

- 治験の主たる段階であるフェーズII、フェーズIIIに特化

3 特定顧客への特化【クライアント戦略】

- 豊富な医薬品開発情報を有する大手製薬会社に特化

経営効率の高い業務へ集中

当社のCROビジネスにおける事業戦略



モニタリング業務とは？

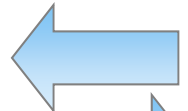
治験が、法規制や計画に従って実施されていることを確認し
データ収集を行う業務

※ CRAは、治験を実施する医療機関を訪問し、
治験薬や実施計画書・手順書について説明、
その後、治験が手順通り正確に行われている
かをモニタリング（監視）、データの回収まで、
責任を持って行います

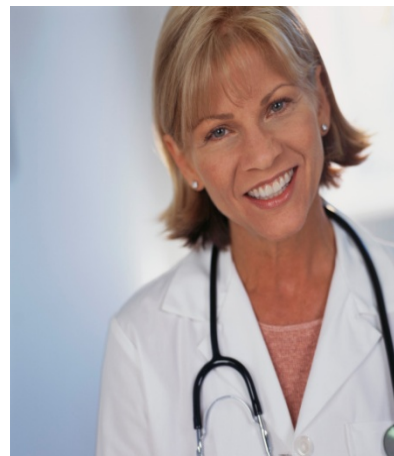


被験者(患者様)

説明
投薬
診断・記録

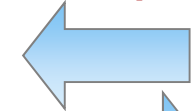


同意
参加



治験実施医療機関

調査
依頼契約
治験薬設置
情報提供
進捗確認
データ確認



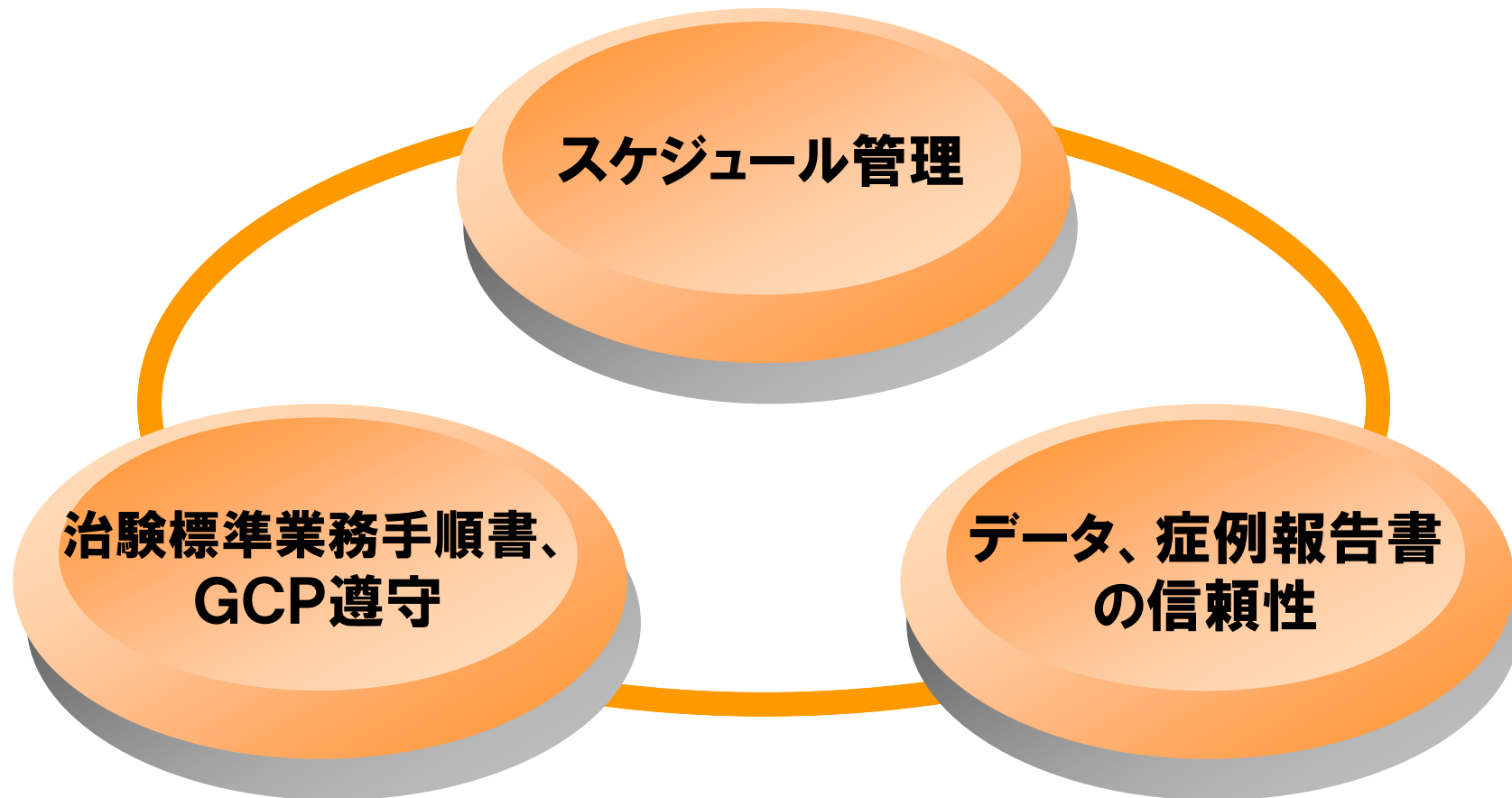
データ提供



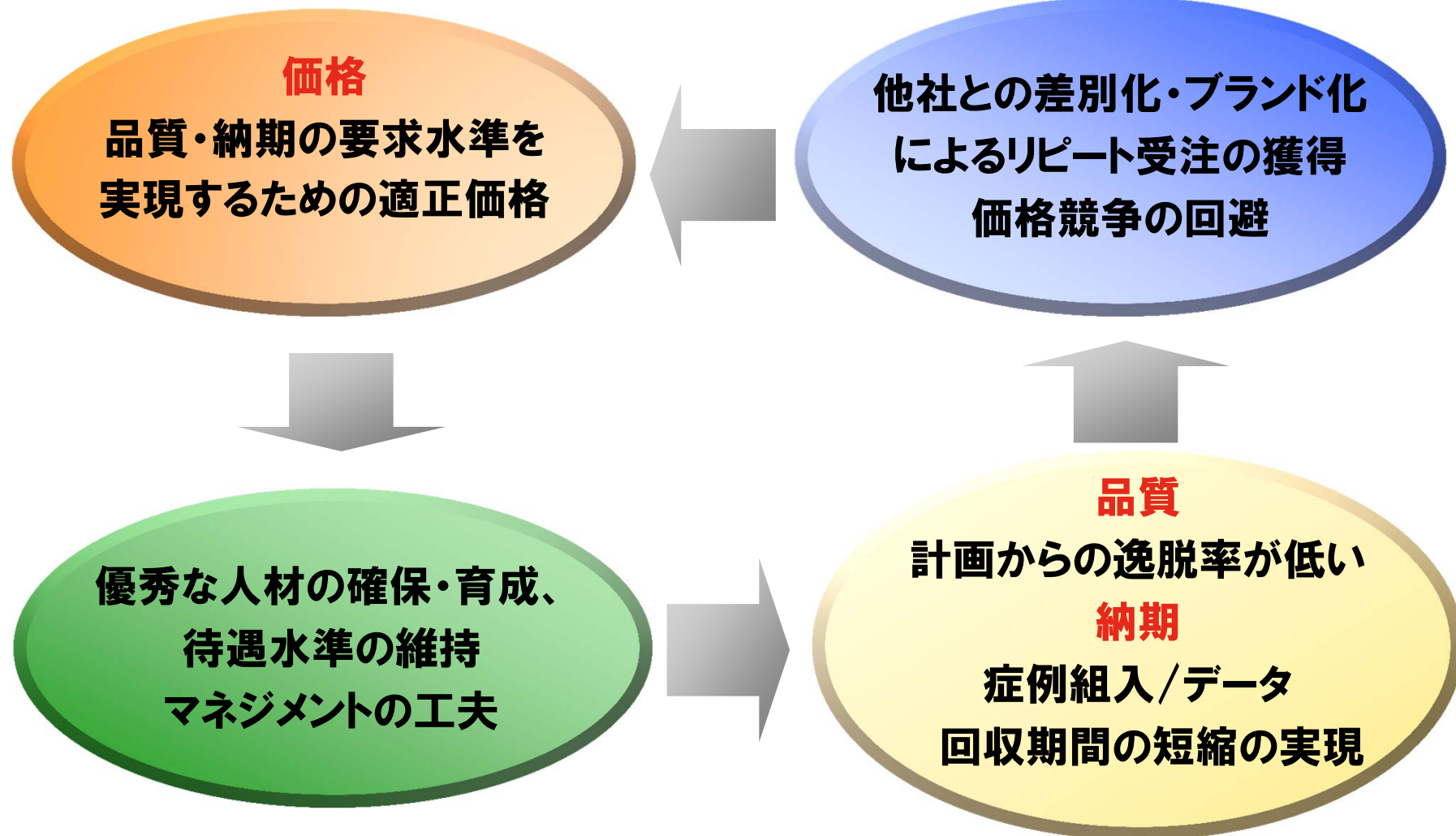
CRA (臨床開発モニター)

当社グループの強み(差別化ポイント)

高いサービスクオリティ



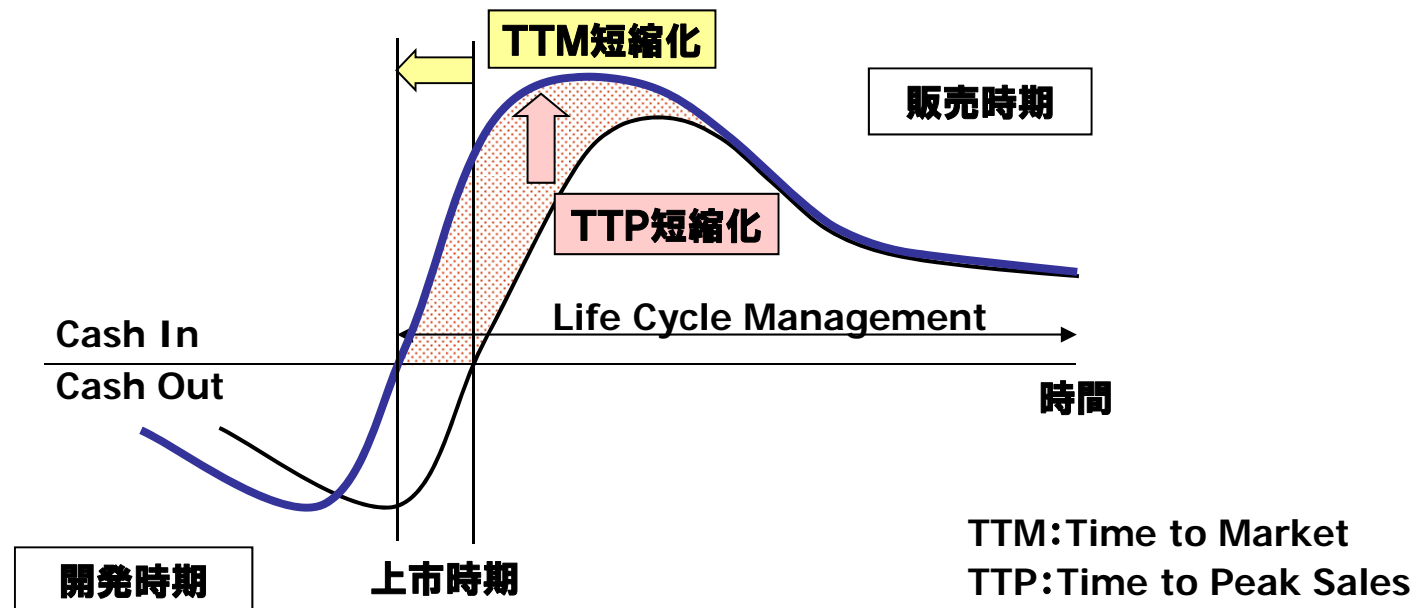
CROにとってのQCD



リニカルは製薬会社の真のClinical Development Partnerを目指しています

リニカルはCSR(corporate social responsibility)として、医薬品開発業務の一端を担う会社として社会に貢献したいと考えています。

リニカルは真のパートナーとして依頼者様に貢献できることを目指しています。臨床試験の経験豊富なリーダー・CRAによりチーム編成し、迅速に質の高いデータを収集することで上市時期の前倒し(TTM短縮化)に貢献することを目指しています。さらに、治験において治験責任・分担医師より化合物の情報を収集し依頼者様へ伝達することで、早期の売り上げの最大化(TTP短縮化)に貢献できることを目指しています。



経営理念



医薬品開発のあらゆる場面で常にプロフェッショナルとしての質を提供し、ステークホルダーである製薬会社、医療機関、患者ならびに株主、従業員の幸せを追求する。

注意事項

**本資料に掲載されている、計画、予想、戦略等は、歴史的
事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。これら
は、現在入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しで
あり、過度の信用を置かれませぬようお願いいたします。**

**掲載された情報の誤りによって生じた障害等に関しまして、
当社は一切責任を負うものではありませんのでご了承ください。
また、本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。
投資に関する決定は利用者ご自身のご判断において行
われるようお願いいたします。**